

DATA PROJECTOR

XJ-L8300HN

取扱説明書

- ・本製品をご使用になる前に「安全のために」をお読みになり、正しくお使いください。
- ・本書は必要なときにいつでも参照できるように、安全な場所に保管しておいてください。
- ・本書の最新版は、下記のウェブサイトをご覧ください。
<http://world.casio.com/manual/projector/>

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

この装置は、高調波電流規格JIS C 61000-3-2に適合しています。

- DLP は米国 Texas Instruments 社の登録商標です。
- HDMI、HDMI ロゴ、High-Definition Multimedia Interface は HDMI Licensing, LLC の商標および登録商標です。
- HDBaseT™ および HDBaseT Alliance ロゴは HDBaseT Alliance の商標です。
- Blu-ray™ およびロゴは Blu-ray Disc Association の商標です。
- PJLink は、日本、米国その他の国や地域における出願商標または登録商標です。
- Crestron、Crestron Connected、Crestron Connected ロゴは米国 Crestron Electronics, Inc. の登録商標です。
- AMX は米国 AMX LLC の登録商標です。
- XGA は米国 IBM コーポレーションの登録商標です。
- その他本書に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。
- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の一部または全部を複製することは禁止されています。本書は、お客様ご自身でご使用になるためにのみお使いください。CASIO COMPUTER CO., LTD. の文書による許可がない場合は、それ以外の使用は一切認められません。
- CASIO COMPUTER CO., LTD. は、本製品または本書を使用した結果生じた利益の喪失や第三者からの苦情について一切責任を負いません。
- CASIO COMPUTER CO., LTD. は、本製品の故障または補修に起因するデータの消失、またはその他の理由によるデータの消失によって生じた損失または利益の喪失について一切責任を負いません。
- 本書に使用されているサンプル画面は参照用であり、実際の画面とは異なる場合があります。

目次

安全にお使いいただくために	4
レーザーと高温に関する注意 (プロジェクターのラベルをご覧ください)	11
その他のご注意	12
はじめに	14
パッケージ内容	14
プロジェクター外観ビュー	15
制御装置および機能	16
プロジェクターの設置	18
設置場所の選択	18
投写画像サイズの調整	18
プロジェクターの取り付け	20
投写画像の調整	21
接続	22
操作	26
プロジェクターの起動	26
メニューの使用方法	27
プロジェクターの保護	28
入力信号の切り替え	30
プロジェクターをシャットダウンする	30
メニューの操作	31
ピクチャメニュー	31
表示メニュー	34
設置メニュー	35
システム設定：基本メニュー	36
システム設定：詳細メニュー	36
情報メニュー	38
プロジェクターの遠隔操作	39
プロジェクター RS-232C の制御	43
メンテナンス	48
プロジェクターのお手入れ	48
光源ユニットについて	49
トラブルシューティング	51
仕様	52
プロジェクターの仕様	52
外形寸法	53
タイミングチャート	54

安全にお使いいただくために

安全のために

安全記号について

お客様に本製品を安全にご使用いただくために、また周囲の物品が破損したりしないように、取扱説明書および本製品にはさまざまな記号が使用されています。各記号の意味を以下に紹介します。

 危険	この記号は、注意に従わなければ死亡または重症に至ることを示しています。
 警告	この記号は、注意に従わなければ死亡または重症を負う危険性があることを示しています。

アイコンの例

 三角形は注意して行う行為を意味します。ここに示す例は、感電に注意する必要があることを意味します。

 円形に斜線が入った記号は、行うべきでない行為を意味します。具体的な行為は、円形の内側に図で示されています。ここに示す例では、解体が禁止されていることを意味します。

 黒い円は、行うべき行為を意味します。具体的な行為は、円形の内側に図で示されています。ここに示す例では、コンセントから電源コードを抜くよう指示しています。

ご使用中の注意

警告

• 小さいお子様が近くにいる場合、特にお子様がプロジェクターに手を触れないように、大人の方が注意してください。

• 煙、異臭、熱、その他の異常

 煙、異臭、その他の異常に気付いたら、直ちにプロジェクターのご使用をお止めください。火災や感電の原因となります。すぐに次のことを行ってください。

1. プロジェクターの電源を抜きます。
2. 販売店または「修理に関するお問合せ先」にお問い合わせください。

• 故障

 プロジェクターを正しく使用しているにも係わらず、スクリーンに正常に画像が表示されない、またはその他の異常が生じた場合は、直ちにプロジェクターのご使用をお止めください。火災や感電の原因となります。すぐに次のことを行ってください。

1. プロジェクターの電源を切ります。
2. プロジェクターの電源を抜きます。
3. 販売店または「修理に関するお問合せ先」にお問い合わせください。

• 電源コード

 電源コードを誤用すると、火災や感電の原因となります。

常に次の点に注意してください。

- プロジェクター付属のアクセサリだけをご使用ください。
- プロジェクターに記載されている電圧と同じ電源をお使いください。
- 多数の機器を接続してオーバーロードの状態にしないでください。
- ストーブの近くに電源コードを置かないでください。
- プロジェクター用の電源コードを別の機器では使用しないでください。
- プロジェクターと別の機器を同時に同じ電源で使用しないでください。延長コードをお使いになる場合は、延長コードのアンペア数がこのプロジェクター消費量と合っているか確認してください。
- 電源コードをまとめた状態でご使用にならないでください。
- プロジェクターの電源コードを外すときに簡単に手が届きやすい場所にあるコンセントをお使いください。

 破損した電源コードを使用すると、火災や感電の原因となります。

常に次の点に注意してください。

- 電源コードの上に重たい物を載せたり、温めたりしないでください。
- 電源コードを壁やプロジェクターを設置したラックまたはテーブル等に固定しないでください。また、クッション等を電源コードの上に載せないでください。
- 電源コードを加工したり、壊したり、折り曲げたりしないでください。
- 電源コードをひねったり、引っ張ったりしないでください。

 濡れた手で電源コードに触れたり、プラグを抜いたりしないでください。感電の危険性があります。

- プロジェクターを購入された国でご使用になる場合は、必ず付属の電源コードをお使いください。国外でプロジェクターをご使用になる場合は、その国の電圧に合った電源コードをご購入ください。その国の安全基準についてもご理解ください。

 外出する際は、ペットやその他の動物がプロジェクターに近づかないようにして、コンセントからプラグを抜いておいてください。電源コードを噛んで壊してしまうと、ショートや火災の原因となります。

• 水と異物

 プロジェクターに水がかかるないようにしてください。火災や感電の原因となります。

 プロジェクターの上に水が入った花瓶やその他の入れ物を置かないでください。火災や感電の原因となります。

 プロジェクターの内部に水や異物（金属等）が入ると、火災や感電の原因となります。プロジェクターの内部に何かが入った場合は、次のことを行ってください。

1. プロジェクターの電源を切ります。
2. プロジェクターの電源を抜きます。
3. 販売店または「修理に関するお問合せ先」にお問い合わせください。

• 解体と改造

-  いかなる方法によっても、プロジェクターを解体したり、改造したりしないでください。プロジェクター内部には高圧部品が多数使用されており、感電や火傷の原因となります。プロジェクターを解体したり、改造したりした結果生じた問題については、保証の対象外であり、CASIO で補修を受けることはできません。

内部検査、調整、補修は、必ず購入された販売店または「修理に関するお問合せ先」に依頼してください。

• 落下と衝撃

-  落下や誤用によりプロジェクターが故障したままで使用し続けると、火災や感電の原因となります。すぐに次のことを行ってください。

1. プロジェクターの電源を切ります。
2. プロジェクターの電源を抜きます。
3. 販売店または「修理に関するお問合せ先」にお問い合わせください。

• 焼却

-  絶対にプロジェクターを火の中に投げ込まないでください。プロジェクターが爆発して火災やケガの原因となります。

• プロジェクターの発光

-  • ライトが点灯しているときには、絶対にレンズ、通気口を覗きこまないでください。プロジェクターの電源を入れる際は、プロジェクターのレンズや通気口を誰も覗いていないか確認してください。プロジェクターから照射される強い光により、視覚障害を負う場合があります。
- 拡大鏡、鏡、その他類似した物を使ってプロジェクターの光を曲げたり、反射させたりしないでください。また、プロジェクターの光が当たる場所にこれらの物を置かないでください。拡散したり、反射したりした光が目に当たり視覚障害を負う場合があります。

• 通気の遮断

-  通気を遮断しないでください。内部に熱がこもり、火災やプロジェクターの故障の原因となります。高温になっているプロジェクターに手を触ると、火傷をする危険性があります。常に次の点に注意してください。

- プロジェクターと壁の間は 30 cm (11.8 インチ) 以上空けてください。プロジェクターの周辺は 30 cm (11.8 インチ) 以上空けてください。
- 十分な通気が確保されにくい場所にはプロジェクターを設置しないでください。
- プロジェクターを毛布などで覆わないでください。
- プロジェクターは安定した場所に設置してお使いください。カーペット、毛布、タオル、クッション、その他柔らかい物の上でプロジェクターを使用しないでください。
- プロジェクターを使用しているときに、プロジェクターの真横に立たないでください。

• プロジェクターのキャビネット

-  プロジェクターのキャビネットは絶対に開かないでください。感電の危険性があります。

• お手入れ

 プロジェクターのお手入れをする前に、電源を切り、コンセントからプラグを抜いてください。感電の危険性があります。

• 排気口

投写中は排気口が非常に熱くなります。絶対にお手を触れないでください。火傷をする危険性があります。排気口付近についても同様です。プラスチック製の物や、その他熱に弱い物をプロジェクターの近くや下に置かないでください。物が変形したり、退色したりする可能性があります。

• レンズカバー（プロジェクターにはレンズカバーが付いています）

プロジェクターの電源を入れる前に、レンズカバーを外してください。プロジェクターを使用している間は、レンズカバーを閉めたままにしないでください。

• 設置場所

次のような場所にはプロジェクターを設置しないでください。火災や感電の原因となります。

• 強く揺れる場所

• 湿気が高い場所やホコリの立ちやすい場所

• 台所や油煙の立ちやすい場所

• ヒーター、電気カーペット、直射日光の当たる場所

• 高温または低温になる場所（作動温度は 5°C ~ 35°C (41°F ~ 95°F)）

• 重い物

プロジェクターの上に重たいものを載せたり、プロジェクターの上に乗ったりしないでください。火災や感電の原因となります。

• 水

プロジェクターを浴室やその他水のかかりやすい場所に設置しないでください。

• 不安定な場所

 プロジェクターを不安定な場所や高い棚の上に置かないでください。落下すると、ケガの原因となります。

• プロジェクターをキャスター付きの台の上に載せないでください。

キャスター付きの台の上にプロジェクターを載せる場合は、キャスターをロックして動かないようにしてください。

• 落雷

落雷がある時には、プロジェクターの電源コードのプラグに手を触れないでください。

• リモコン

 いかなる方法によっても、リモコンを解体したり、改造したりしないでください。感電、火傷、ケガの原因となります。内部検査、調整、補修は、必ず購入された販売店または「修理に関するお問合せ先」に依頼してください。

 リモコンは絶対に濡らさないでください。火災や感電の原因となります。

- 近くで可燃性のガススプレーをお使いにならないでください。

 プロジェクターの近く、またはプロジェクターに向けて可燃性のガススプレーを噴射しないでください。ガスが発火して火災の原因となります。

電池に関する注意

⚠ 危険

 アルカリ電池から漏れ出した液体が目に入った場合は、すぐに次の処置を行ってください。

1. 絶対に目をこすらないでください！ 目をきれいな水で洗ってください。
2. すぐに医療機関を受診してください。すぐに処置を行わなければ、失明する危険性があります。

⚠ 警告

電池を誤用すると、液体が漏れ出し、周囲に付着します。または破裂する可能性があり、火災やケガの原因となる場合があります。常に次の点に注意してください。

- 
- 電池を分解すると、ショートする可能性があります。
 - 電池を加熱したり、火の中に投げ込んだりしないでください。
 - 古い電池と新しい電池を混ぜて使用しないでください。
 - 異なるタイプの電池を混ぜて使用しないでください。
 - 電池は絶対に充電しないでください。
 - 電池は正しい方向に挿入してください。

• 使用済み電池

使用済みの電池は、すぐにリモコンから取り出してください。

 • リモコンを長期間使用する予定がない場合は、リモコンから電池を取り出してください。

• 電池の処理

使用済みの電池は、お住まい地域の規則や条例に基づいて破棄してください。

プロジェクターの発光



- ライトが点灯している間は、光を遮断しないでください。



- ライトが点灯しているときには、絶対にレンズを覗きこまないでください。お子様がいる場合は特にご注意ください。



リスクグループ2

1. 明るい光源ですので、光線を見つめないでください。RG2 IEC 62471-5:2015。
2. この製品からは、光放射が放出される可能性があります。
3. 作動中のランプを見つめないでください。視覚障害を起こす可能性があります。

光源について

- プロジェクターの光源はレーザーを使用します。
- 光源の寿命は約 20,000 時間とされています。実際の寿命は使用条件、セットアップメニューで構成された設定、各光源の差異などによって変わります。
- 光源は、保証書に記載された寿命、または 6,000 時間のどちらか短い方が保証されます。
- 光源が点灯しなくなったり、光源の輝度が著しく低下したりした場合は、光源の寿命であることを意味します。交換については、販売店または「修理に関するお問合せ先」にお問い合わせください。プロジェクターを解体したり、改造したりした結果生じた問題については、保証の対象外であり、CASIO で補修を受けることはできません。

設置上のご注意

- プロジェクターの電源コードを外すときに簡単に手が届きやすい場所にあるコンセントをお使いください。
- プロジェクターと壁の間は 30 cm (11.8 インチ) 以上空けてください。プロジェクターの周辺は 30 cm (11.8 インチ) 以上空けてください。プロジェクターの周囲に物を置かないでください。特にプロジェクターの通気口の周囲には絶対に物を置かないでください。
- エアコンからの空気の流れによって、排気された熱がプロジェクターのレンズ周辺に当たると、投写画像が熱で歪むことがあります。そのような場合は、エアコンの通風を調整したり、プロジェクターを動かすなどしてください。

レーザーと高温に関する注意（プロジェクターのラベルをご覧ください）

レーザーに関する注意

米国以外のラベル ①：このプロジェクターは、IEC 60825-1 : 2014 に準拠するクラス 1 レーザー装置です。

- このプロジェクターにはレーザーモジュールが内蔵されています。解体したり、改造したりすると非常に危険ですので絶対にこのような行為は行わないでください。
- 取扱説明書に記載されていない操作や調整を行うと、レーザー放射にさらされる危険があります。

米国のラベル ②：このプロジェクターは、IEC 60825-1 : 2007 に準拠するクラス 3R レーザー装置です。

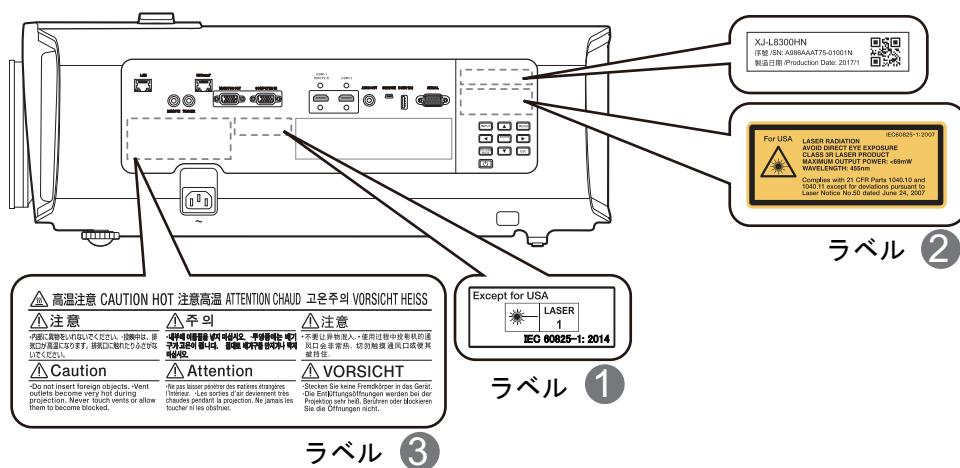
- このプロジェクターにはレーザーモジュールが内蔵されています。解体したり、改造したりすると非常に危険ですので絶対にこのような行為は行わないでください。
- 取扱説明書に記載されていない操作や調整を行うと、レーザー放射にさらされる危険があります。

通気口に関する注意（ラベル ③）



- 投写中は排気口が非常に熱くなります。排気口に手を触ると、通気が遮断されてしまいます。
- 異物を押し込まないでください。

プロジェクターの左側（後ろから見たとき）



その他のご注意

このプロジェクターには、精密機器が使用されています。次の注意にしたがわなければ、データを正しく保存し、不具合を回避することができなくなります。

- プロジェクターは次の場所で使用したり、保管したりしないでください。プロジェクターが故障したり、破損したりする危険性があります。
 - 帯電しやすい場所
 - 高温または低温になりやすい場所
 - 湿度の高い場所
 - 温度が突然変化しやすい場所
 - ホコリの立ちやすい場所
 - グラグラした、不安定で傾斜になった場所
 - 濡れる可能性のある場所
 - 油煙、その他の煙が立ちやすい場所
 - 塩害になりやすい場所
 - 腐食性ガスが発生する場所（温泉地の硫黄ガスなど）
- リモコン受信機が蛍光灯、直射日光、その他強い光に晒されないようにしてください。強い光を当てると故障の原因となります。
- 次の状況ではプロジェクターのご使用をお控えください。プロジェクターが故障したり、破損したりする危険性のある状況。
 - 高温または低温になりやすい場所は避けてください（動作温度範囲は 5°C ~ 35°C (41°F ~ 95°F)）。
 - プロジェクターの上に重たいものを載せたり、プロジェクターの上に乗ったりしないでください。
 - プロジェクターの内部に異物を挿入したり、落としたりしないでください。
 - プロジェクターの上に水が入った花瓶やその他の入れ物を置かないでください。
- プロジェクターを設置するときや、設置のために底面の操作をするときは、本体の下に手を挟まないようにご注意ください。
- リモコンの中に消耗した電池を長時間入れたままにしないでください。

消耗した電池から液体が漏れて、リモコンの故障や破損の原因となる場合があります。電池はリモコンの使用頻度に関わらず、1年に1回は交換してください。

- 柔らかく乾いた布でお手入れしてください。

汚れがひどい場合は、中性洗剤を水に混ぜたもので湿らした柔らかい布で拭いてください。布はしっかりと絞ってからお使いください。シンナー、ベンジン、その他揮発性の素材でプロジェクターのお手入れをしないでください。外側ケースのマークが剥がれたり、シミが残ったりする可能性があります。

- スクリーンのドット抜け

本商品は、非常に高度な技術を駆使して作られておりますが、スクリーンの一部が抜けている場合があります。これは正常な状態であり、故障ではありません。

- 投写中にプロジェクターに強い衝撃を与えないでください。

プロジェクターに強い衝撃を与えると、投写画像が一瞬消えてしまう場合があります。その後画像は元に戻りますが、色が正常に表示されなかったり、エラーメッセージが表示されたりする場合があります。

投写画像が正しい色で表示されない場合は、現在の入力機器を再度選択してください。それでも正しい色で表示されない場合は、一度プロジェクターの電源を切ってから再度オンにしてください。

- プロジェクターの近くにある電源をお使いください。プロジェクターは、電源コードにすぐに手が届く場所でお使いください。
- プロジェクターを長時間（24時間以上）ノンストップで使用したり、「設置上のご注意」に従わない方法で使用した場合には、保証期間内であっても修理費用が発生する場合があります。
- 高温環境、またはホコリ、油煙、タバコの煙、その他の煙が立つ場所でご使用になると、光学エンジンなどの交換サイクルが短くなる場合があります。このような場合の交換については費用が発生しますのでご注意ください。交換サイクルや料金については、「修理に関するお問合せ先」にお問い合わせください。

- 結露

プロジェクターを寒い場所から暖かい場所へ移動させたり、寒い部屋でヒーターを点火したり、その他同様の状況においては、プロジェクターのレンズや内部で結露が生じ、投写画像のピントが合わなかったり、故障やその他のトラブルが発生する場合があります。このような場合は一旦プロジェクターを切り、結露が自然と解消されるのをお待ちください。そうすると、画像が正常に投写されるようになります。

- 外付け装置への給電

プロジェクターの電源を切ると、外部装置への電力供給も停止されます。また、本機がセルフチェックのため再起動したり、オートパワーオフやエラーなどで電源が切れたりした場合も、給電は停止します。使用している外部装置によっては、電源供給が遮断されることで編集中のデータが消失したり、壊れたりする場合があります。プロジェクターが電力を供給している外部機器にはデータを頻繁に保存する習慣をつけてください。CASIO COMPUTER CO., LTD. はデータの消失や破損については、いかなる責任を負いません。

はじめに

パッケージ内容

丁寧に開梱し、次に示すものがすべて揃っていることを確認してください。不足しているものがある場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

標準アクセサリ

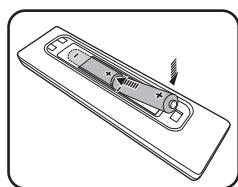
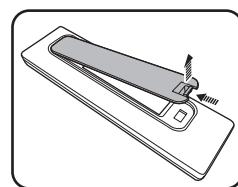
- ・プロジェクター
- ・リモコン YT-310
- ・結束バンドセット × 2
- ・試用乾電池（単三 × 2 本）
- ・AC 電源コード
- ・RGB ケーブル
- ・「安全上のご注意」
- ・「ご使用前にお読み下さい」
- ・保証書 *



- ・付属のアクセサリは、お客様のお住まい地域でご使用いただけるタイプのものとなっております。
- ・* 保証書は特定地域でしか提供しておりません。詳細は、本製品を購入された販売店へお問い合わせください。

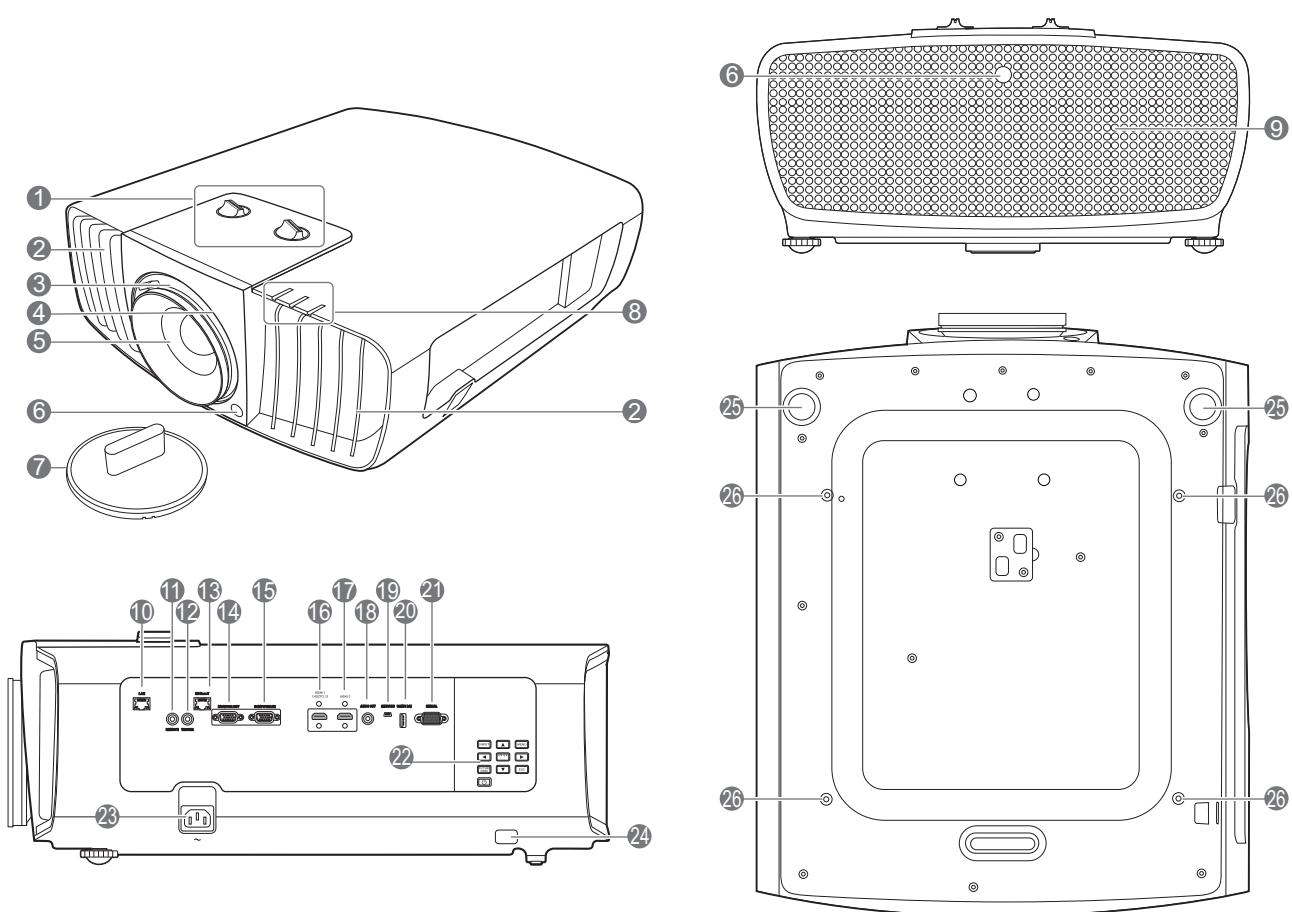
リモコンの電池の交換

1. カバーを指で押して、図に示す矢印の方向に持ち上げます。
2. 古い電池を取り出して（該当する場合）、AA（単3）電池を2個挿入してください。図に示すとおり、極性に注意してください。
3. 再びカバーを元に戻してください。カチッという音がしたらカバーが閉まったことを意味しています。



- ・リモコンや電池は台所、浴室、サウナ、サンルーム、車内など高温多湿の場所に放置しないでください。
- ・電池メーカーが推奨するものと同じか、または同種の電池以外は使用しないでください。
- ・また、使用済みの電池は各自治体の回収規則にしたがって廃棄してください。
- ・電池を火の中に投げ込まないでください。破裂の危険性があります。
- ・電池が完全に消耗してしまったり、またはリモコンを長期間使用しないときには、液漏れによりリモコンのコントロール部分が破損しないように電池は外しておいてください。

プロジェクター外観ビュー



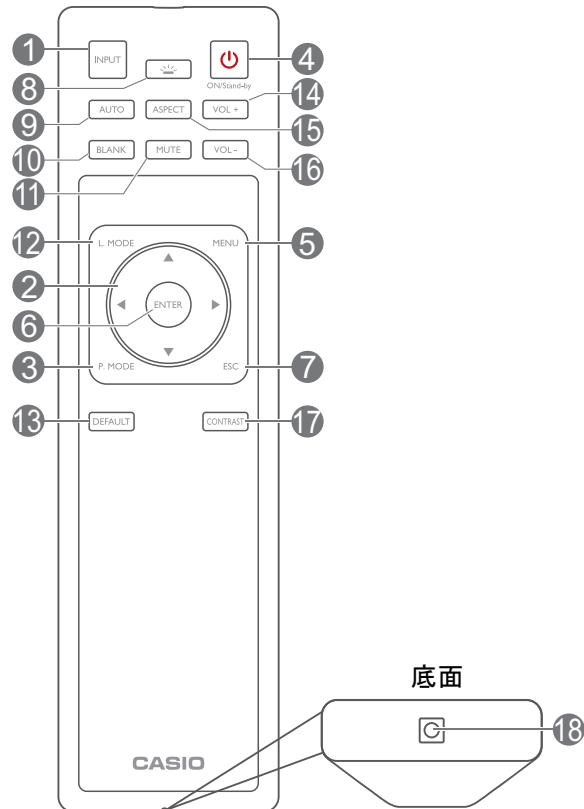
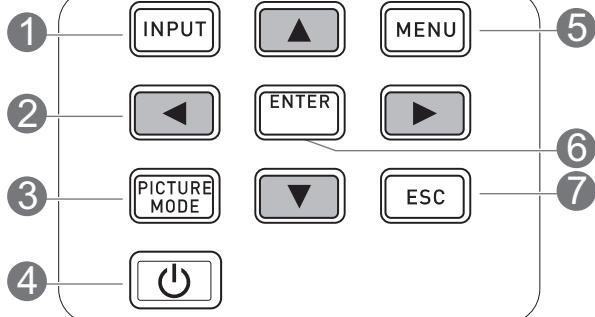
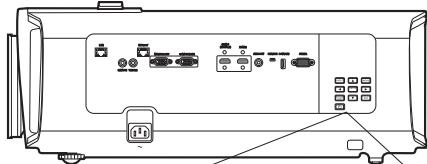
1. レンズシフト調整ノブ（左右、上下）
2. 通気口（熱気排気口）
3. フォーカスリング
4. ズームリング
5. 投写レンズ
6. 赤外線リモートセンサー
7. レンズカバー
8. **POWER**（電源インジケーターライト）/ **TEMP**（温度警告ライト）/ **LIGHT**（ライトイインジケーターライト）
(50 ページの「インジケーター」を参照してください。)
9. 通気口（冷風取り込み口）
10. RJ-45 LAN 入力ジャック
11. リモコンジャック
有線リモコン用です。
12. 12 VDC 出力端子
電動スクリーンライト コントロールなどの電子デバイスを機能させます。
13. HDBaseT 入力ポート
14. RGB (PC) 信号出力ジャック
15. RGB (PC)/Component Video (YPbPr/YCbCr) 信号入力ジャック
16. HDMI 1 入力ポート (HDCP 2.2)
17. HDMI 2 入力ポート
18. オーディオ出力ジャック
19. サービスポート
20. DC (5V 2A) 出力ポート
21. シリアルポート
22. 外部コントロールパネル
(16 ページの「制御装置および機能」を参照してください。)
23. AC 電源ジャック
24. セキュリティバー
25. 高さ調整脚
26. 天井取り付け穴

制御装置および機能

プロジェクターとリモコン



本書で説明するキーはすべて、リモコンまたはプロジェクターにあります。



1. INPUT

入力選択バーが表示されます。

2. 矢印キー (▲、▼、◀、▶)

オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューが有効な場合、これらのキーを方向指示のボタンとして使用し、メニュー項目の選択や調整を行います。

3. PICTURE MODE

有効な画像設定モードを選択します。

4. 電源オン/スタンバイ

スタンバイモードと電源オンの状態を切り替えます。

5. MENU

オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューをオンにします。

6. ENTER

選択したオンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューのアイテムを確定します。

7. ESC

前の OSD メニューに戻ったり、終了してメニュー設定を保存します。

8. バックライト

リモコンのバックライトを数秒間オンにします。バックライトを点灯したままにしておくには、バックライトが点灯しているときにその他のキーを押します。再度キーを押すと、バックライトが消灯します。

9. AUTO

表示画像に最適なタイミングを自動的に決定します。

10. BLANK

スクリーン画像を消すために使用します。



投写中に投写レンズを他の物体で覆わないでください。その物体が過熱し、火災の原因となり危険です。

11. MUTE

プロジェクターの音声をオン / オフに切り替えます。

12. L. MODE

光源モードを選択します。

13. DEFAULT

現在の機能を初期値に戻します。

14. VOL+

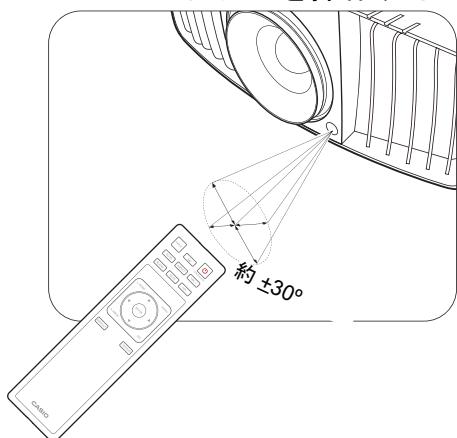
プロジェクターの音量を上げます。

リモコンの有効範囲

リモコンはプロジェクターの IR リモコン センサーに対して垂直に 30 度以内の角度に持たなければ、正しく作動しません。リモコンとセンサーの距離は、8 メートル (~ 26 フィート) 以内でなければなりません。

リモコンとプロジェクターの IR センサーの間に障害物があると、赤外線光線が届かない場合があります。

• 正面からプロジェクターを操作する



15. ASPECT

表示縦横比を選択します。

16. VOL-

プロジェクターの音量を下げます。

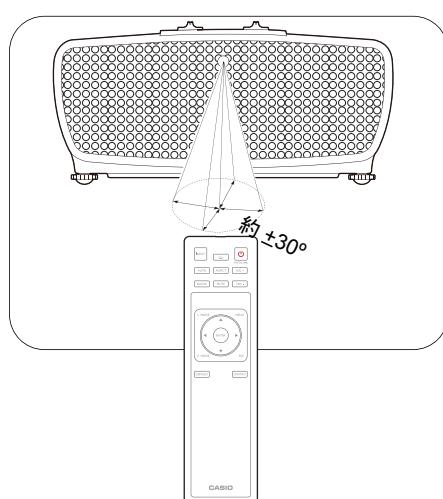
17. CONTRAST

コントラスト設定バーを表示します。

18. 有線リモコン用ポート

リモコン操作用にプロジェクターにケーブルを接続します。

• 背面からプロジェクターを操作する



プロジェクターの設置

設置場所の選択

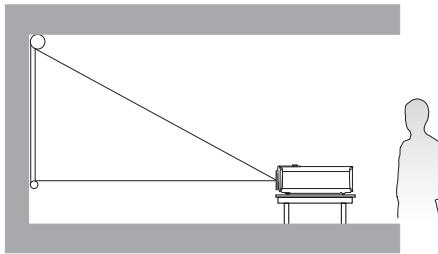
プロジェクターの設置場所を決める際には、次のことに配慮してください。

- ・スクリーンのサイズと位置
- ・コンセントの位置
- ・プロジェクターとその他のデバイスの間の位置と距離

このプロジェクターは、次の方法で設置できます。

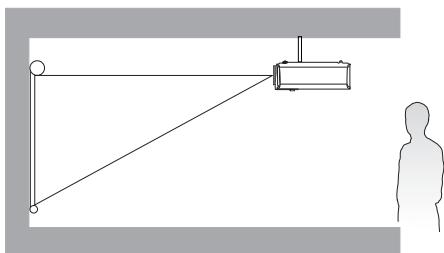
1. 正面

プロジェクターをスクリーンの正面に置いたテーブルに設置します。これが最も一般的な設定です。



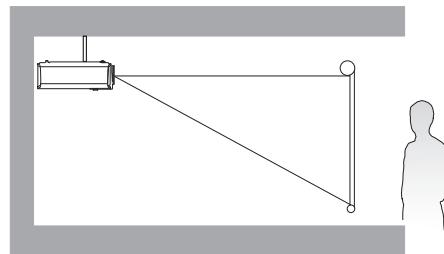
2. 天井正面投写

プロジェクターを上下逆さまにスクリーン正面の天井に取り付けます。プロジェクターを天井に取り付ける際は、販売店よりプロジェクターの天井取り付けキットをご購入ください。



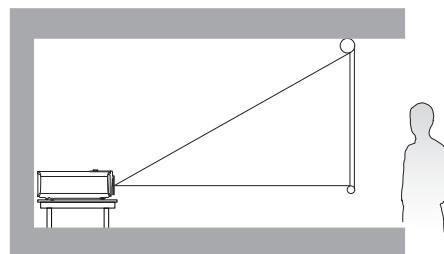
3. 天井背面投写

プロジェクターを上下逆さまにスクリーン背面の天井に取り付けます。このような設置を行うには、特殊な背面投写用スクリーンとプロジェクターハウジングキットが必要です。



4. 背面

プロジェクターをスクリーン背面に置いた机の上に設置します。専用の背面投写スクリーンが必要です。



プロジェクターの電源を入れた後、**設置 > プロジェクターモード**を選択し、**◀/▶**を使って設定を選択します。

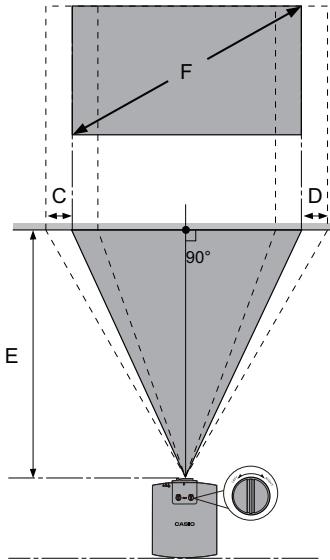
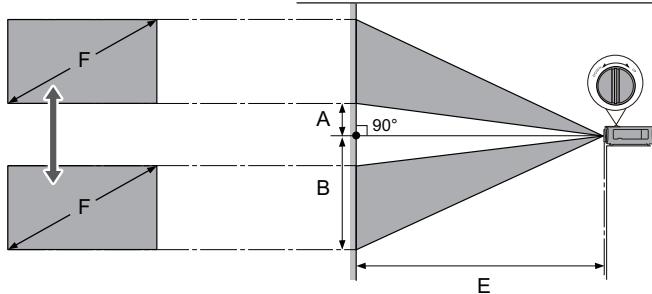
投写画像サイズの調整

投写距離、ズーム設定、ビデオフォーマットにより投写画像サイズは変化します。レンズをシフトするには、画像が正しい位置に表示されるようにプロジェクターのつまみを回して調整します。

正面投写

- ポートレートに位置を調整します

- 横方向に位置を調整します



- A : レンズの中心から投写画像の下端までの距離（レンズシフトが上端に設定されているとき）
 B : レンズの中心から投写画像の下端までの距離（レンズシフトが下端に設定されているとき）
 C : レンズの中心の移動距離（レンズシフトが左端に設定されているとき）
 D : レンズの中心の移動距離（レンズシフトが右端に設定されているとき）
 E : プロジェクターからスクリーンまでの投写距離
 F : 投写画像のサイズ

- スクリーンの縦横比は 16:9、投写画像の縦横比は 16:9

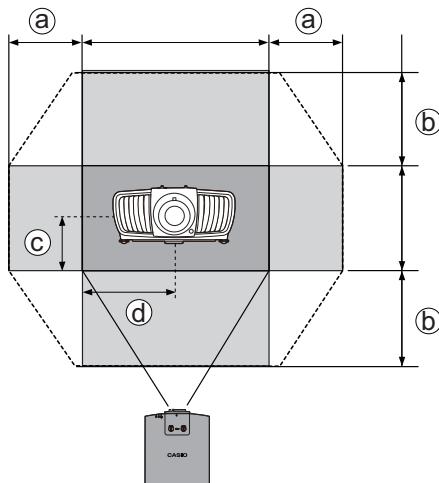
投写画像 サイズ		投写画像のサイズ (F)				投写距離 (E)				オフセット (A)		オフセット (B)		オフセット (C、D)	
対角		高さ		幅		最短 (ワイド)		最長 (テレ)							
インチ	cm	インチ	cm	インチ	cm	インチ	cm	インチ	cm	インチ	cm	インチ	cm	インチ	cm
95	241	47	118	83	210	114	289	167	425	4.7	12	51.2	130	20.7	53
100	254	49	125	87	221	120	305	176	448	4.9	12	53.9	137	21.8	55
120	305	59	149	105	266	144	366	212	537	5.9	15	64.7	164	26.1	66
150	381	74	187	131	332	180	457	264	672	7.4	19	80.9	205	32.7	83
180	457	88	224	157	398	216	548	317	806	8.8	22	97.1	247	39.2	100
200	508	98	249	174	443	240	609	353	896	9.8	25	107.9	274	43.6	111



測定値はすべておよその値であり、実際のサイズにより変わります。

プロジェクターを特定場所に完全に固定したい場合は、本製品の光学特性を生かすために、実際のプロジェクターを使って投写サイズと距離を物理的に試してから固定するようお勧めします。このように準備しておくことによって、プロジェクターを最適な位置に設置することができます。

レンズシフトの投写範囲



- a : 最大水平範囲 ($H \times 25\%$)
- b : 最大垂直範囲 ($V \times 60\%$)
- c : 画像の縦の 1/2
- d : 画像の横の 1/2

 ノブがカチッという音がしたら回すのを止めてください。それ以上回すと、ノブが壊れる可能性があります。

 画像を縦方向と横方向の両方に最大値まで動かすことはできません。

プロジェクターの取り付け

プロジェクターを取り付ける際は、天井取り付けキットをお使いになり、しっかりと安全に取り付けるようお勧めします。

プロジェクターを取り付ける前に

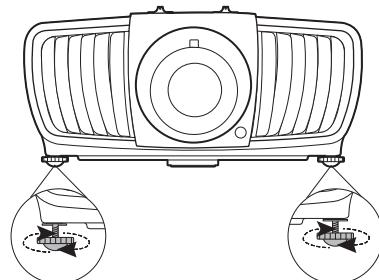
- プロジェクターの取り付けは、販売店にご依頼ください。お客様ご自身でプロジェクターを取り付けると、落下するなどしてケガの原因となります。
- 地震などの際にプロジェクターが落下しないように、正しい手順で設置してください。
- 不適切な場所に天井取り付けキットを取り付けたことが原因で生じたダメージについては、このプロジェクターの保証の対象とはなりません。
- 天井に取り付ける場合は、周囲の温度にご注意ください。ヒーターを使用する場合は、天井周辺の温度が予想以上に高くなる場合があります。
- トルク範囲については、取り付けキットの取扱説明書を最後までよくお読みください。推奨範囲を超えてトルクを締め付けると、プロジェクターの故障の原因となり、結果的に落下する場合があります。
- いつでも簡単にプロジェクターをシャットダウンできるように、コンセントが手に届く位置にあるか確認してください。

投写画像の調整

投写角度の調整

プロジェクターが床に対して水平な場所に設置されていない場合、またはスクリーンとプロジェクターが垂直に設置されていない場合は、投写画像が台形になります。調整脚を回して、水平角度を微調整します。

高さ調整脚を収納するには、背面調整脚のネジを反対方向に回します。



- ⚠️ • 光源がオンになっているときには、絶対にレンズを覗きこまないでください。光源からは強い光が発されており、目を傷つける場合があります。
- 高さ調整脚を右回りに回し続けると外れます。これは故障ではありません。こうなった場合は、高さ調整脚を左回りに回して元に戻してください。

画像の自動調整

場合によっては、画質を最適化する必要が生じることもあります。これを実行するには、**AUTO** を押します。組み込みのインテリジェント自動調整機能により周波数およびクロックの値が再調整され、3秒以内に最適な画質が得られます。

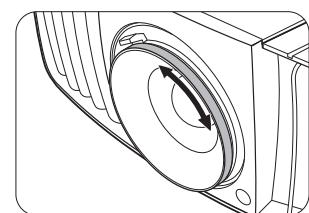
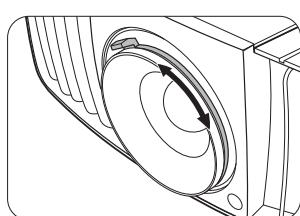
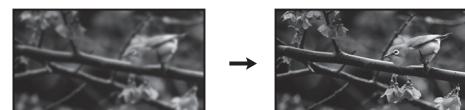
現在のソース情報がスクリーンの隅に3秒間表示されます。



この機能は PC 信号（アナログ RGB）が選択されている場合にしか使用できません。

画像サイズとフォーカスの微調整

1. 投写されたイメージのサイズを調整するには、ズームリングを使用します。
2. フォーカスリングを回して焦点を合わせます。

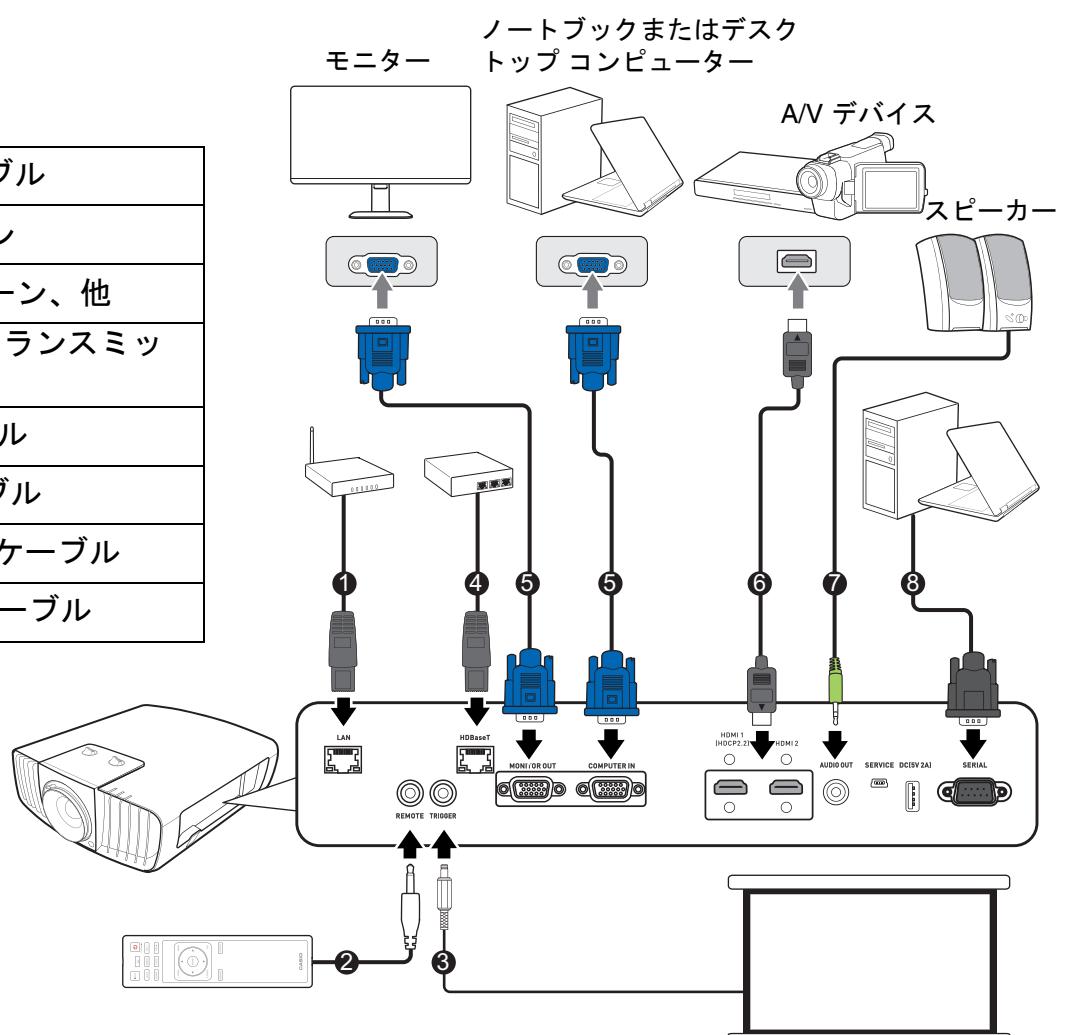


接続

信号ソースをプロジェクターに接続する際には、次の点を確認してください。

- 接続を行う前にすべてのデバイスの電源をオフにします。
- 各ソースに正しい信号ケーブルを使用します。
- ケーブルがしっかりと差し込まれていることを確認します。

①	RJ-45 ケーブル
②	有線リモコン
③	電動スクリーン、他
④	HDBaseT トランシッタ
⑤	VGA ケーブル
⑥	HDMI ケーブル
⑦	オーディオ ケーブル
⑧	RS-232C ケーブル

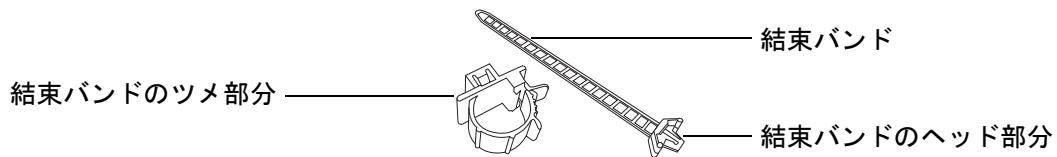




- 上に示す接続図のケーブルは、本機に付属していません（詳細は、14 ページの「パッケージ内容」を参照してください。）ケーブルはお近くの電気店でお求めください。
- 接続図は参考用です。プロジェクターの背面にある接続ジャックは、プロジェクターのモデル毎に異なります。
- 多くのノートブックコンピューターでは、プロジェクターを接続しただけでは映像の外部出力はオンになりません。通常は FN + モニターの記号が付いた機能キーを同時に押すと、外付けディスプレイをオン / オフにすることができます。FN と記号が記された機能キーを同時に押します。ノートブックのキーの組み合わせについては、ノートブックの説明書をお読みください。
- 正しいビデオソースが選択されているにもかかわらず、電源をオンにしても選択したビデオイメージが表示されない場合は、ビデオソースの電源がオンになっていて正しく動作していることを確認してください。また信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
- LAN ポートは Ethernet 機能を提供します。
- HDMI 接続には必ず High Speed HDMI ケーブルをお使いください。
- HDMI 1 ポートを介して 4K コンテンツを投写する場合は、プレミアム High Speed ケーブルをお使いください。
- RS-232C 接続には、シールド付き RS-232C ケーブルをお使いください。

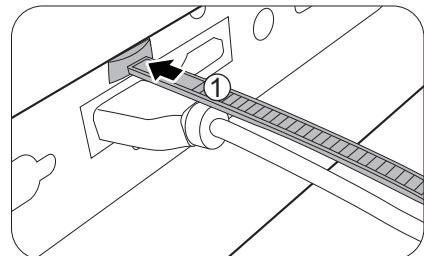
結束バンドセットを使う

結束バンドセットは、接続ポートからケーブルのプラグが抜けるのを防止します。次のページが含まれています。

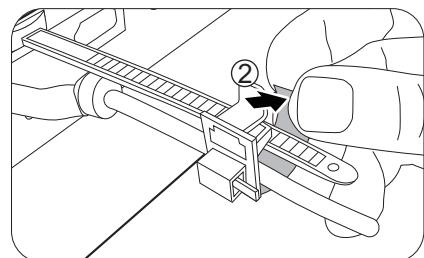


結束バンドセットを使う :

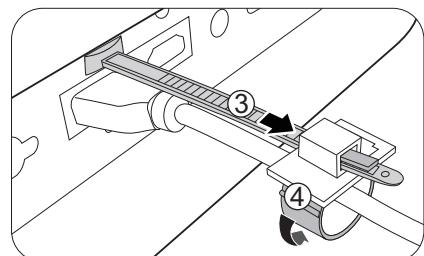
1. ケーブルをプロジェクターの正しいポートにしっかりと繋ぎます。結束バンドのヘッド部分を接続ポートの真上にある穴に差し込みます。ヘッド部分を一旦結束バンドの穴に差し込むと、抜くことはできなくなります。



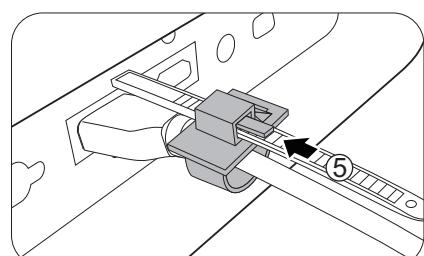
2. 結束バンドのツメ部分を持ちます。ツメ部分を少し開き、接続ケーブルを巻き付けます。



3. 図のように、結束バンドの端を結束バンドのツメ部分に差し込みます。



4. つまみを押して、結束バンドのツメ部分を閉じます。



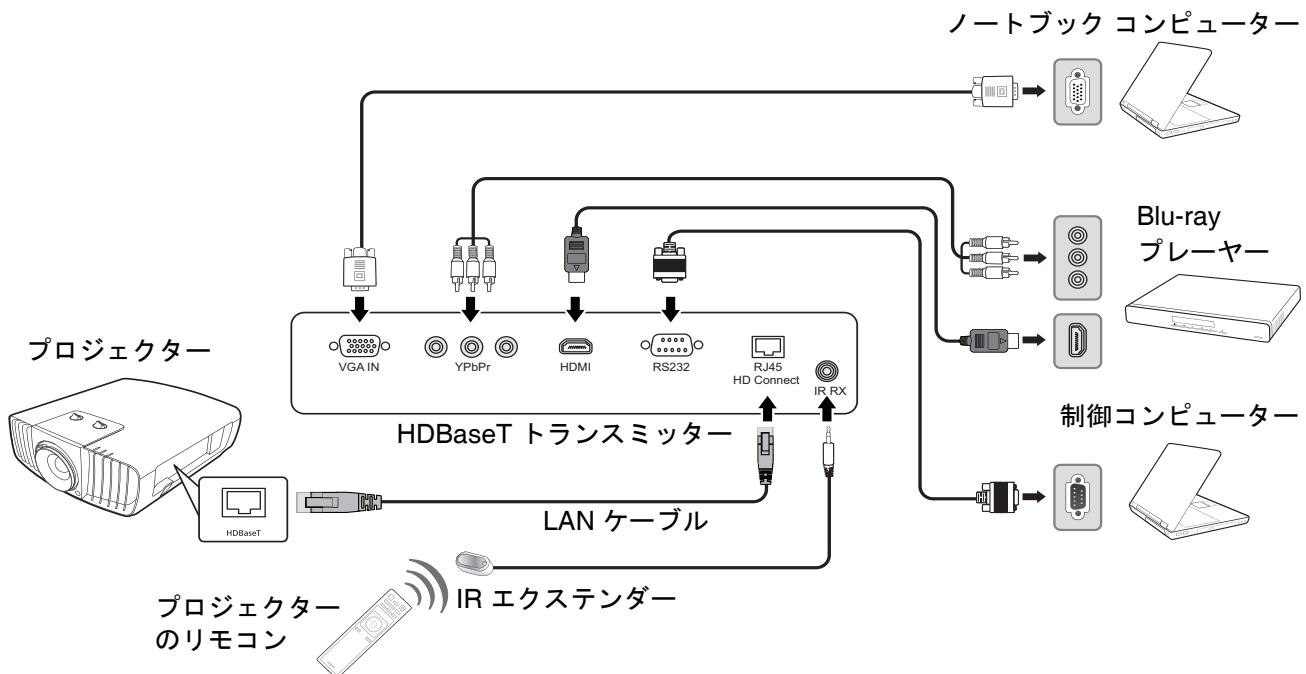
5. 結束バンドに沿って結束バンドのツメ部分をケーブルプラグの端まで動かします。

HDBaseT で複数のソースを接続する

このモデルの HDBaseT は、HD デジタルビデオ、オーディオ、コントロール信号が使用できます。HDBaseT トランスミッター（市販されています）を使用することで、HDBaseT 接続で複数の入力をプロジェクターに接続することができます。



下の図は参考用であり、実物とは異なる場合があります。

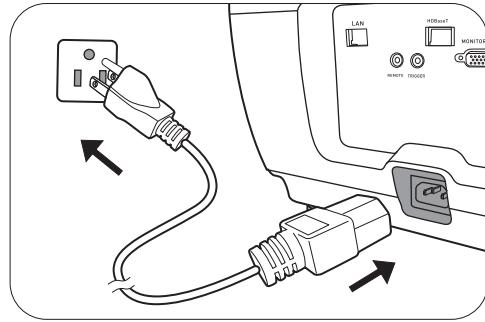


- 次のタイプの LAN ケーブルを使う：
 - CAT5e 以上のシールド付き LAN ケーブル
 - ツイストペア LAN ケーブル
 - シングルワイヤー
 - ストレートケーブル
- 最大通信距離は 100 m です。
- 環境によっては、最大通信距離が短くなる場合もあります。
- LAN ケーブルが巻かれていたり、束ねられている状態で、LAN ケーブルをご使用にならないでください。
- 投写中に LAN ケーブルを挿入したり、取り外したりすると、ノイズを生じさせる場合があります。
- 市場で販売されているすべての HDBaseT トランスミッターと接続できるわけではありません。
- 入力をプロジェクターに接続する際使用するとき、HDBaseT トランスミッターによっては正しく投写できない場合があります。
- プロジェクターがスタンバイモードの時には、HDBaseT からコマンドを受け取ることができません。

操作

プロジェクターの起動

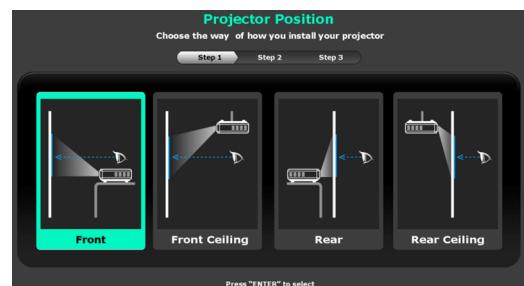
1. 電源コードを繋ぎます。コンセントのスイッチをオンにします（該当する場合）。電源を入れると、プロジェクターの電源インジケーターが赤く点灯します。
2. プロジェクターまたはリモコンの  を押すと、プロジェクターが起動します。電源インジケーターが緑色に点滅し、投写されると緑色に点灯します。
必要であれば、フォーカスリングを使って画像の鮮明さを調整してください。
3. 初めてプロジェクターを起動すると、プロジェクターの設定手続きを案内するセットアップ ウィザードが開きます。すでに設定が完了している場合は、これを省略して次のステップに進んでください。
 - プロジェクターかリモコンの矢印キー ($\blacktriangle/\blacktriangledown/\blacktriangleleft/\blacktriangleright$) を使って、メニューアイテムを移動します。
 - **ENTER** を使って、選択したメニューアイテムを確定します。



ステップ 1 :

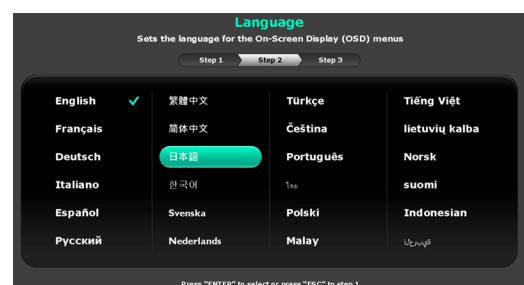
プロジェクターの設置を指定します。

プロジェクターの設置については、[設置場所の選択](#)を参照してください。



ステップ 2 :

OSD 言語を決定します。

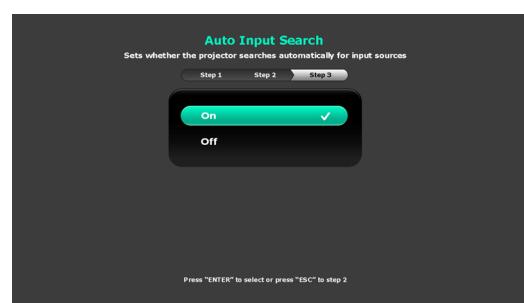


ステップ 3 :

自動ソース探知を有効にするかを指定します。

プロジェクターがオンのとき、有効な信号を自動的に検出したい場合は、**オン**を選択します。

初期設定が完了しました。



4. パスワードの入力を求められた場合は、矢印キーを押して 6 衔のパスワードを入力してください。[28 ページの「パスワード機能を使用する」](#) を参照してください。
 5. 接続されているすべての機器の電源をオンにします。
 6. プロジェクターが入力信号の検索を開始します。現在スキャン中の入力信号が表示されます。プロジェクターが有効な信号を検出しない場合は、入力信号が検出されるまで「信号なし」のメッセージが表示され続けます。
- 入力信号を選択するには、**INPUT** を押してください。[30 ページの「入力信号の切り替え」](#) を参照してください。



- 付属のアクセサリ（電源コードなど）を使って、感電や火災などの危険を防止してください。
- セットアップ ウィザードのスクリーンショットは参考用であり、実際の仕様とは異なる場合があります。
- 入力信号の周波数 / 解像度がプロジェクターの動作範囲を超えた場合、「対応範囲外」というメッセージがバックグラウンドスクリーンに表示されます。プロジェクターの解像度に合った入力信号に変えるか、入力信号を低い値に設定し直してください。[54 ページの「タイミングチャート」](#) を参照してください。
- 3 分たっても信号が検出されなければ、プロジェクターは自動的にエコブランクに入ります。

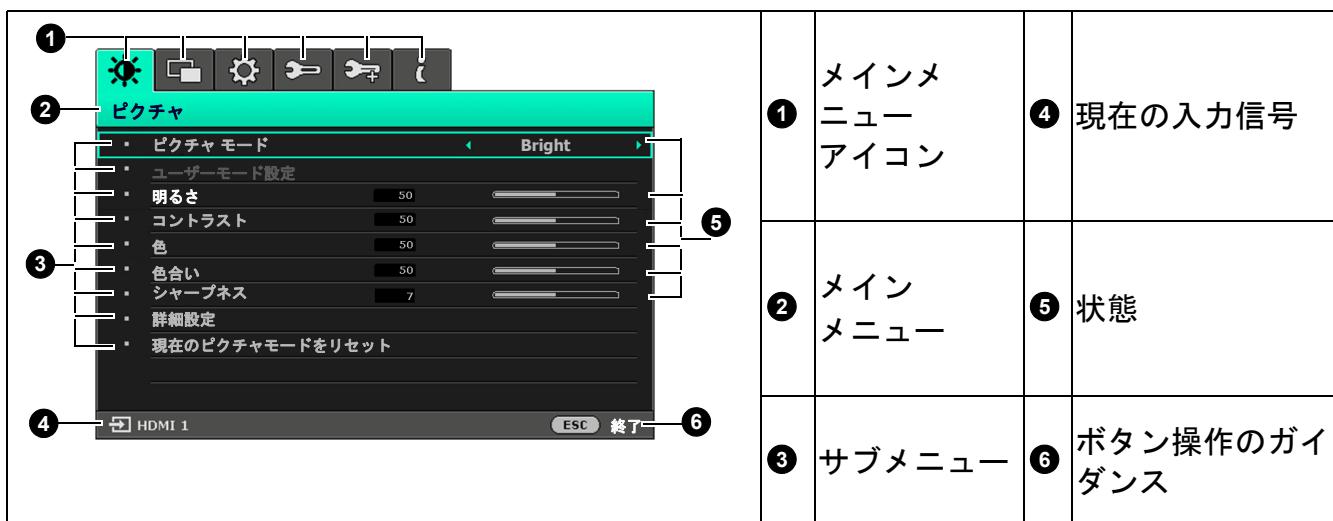
メニューの使用方法

このプロジェクターは、オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューを備えており、各種の調整や設定が行えます。



以下の OSD スクリーンショットは参考用であり、実際の仕様とは異なる場合があります。

以下に OSD メニューの概要を紹介します。



OSD メニューにアクセスするには、プロジェクターまたはリモコンで **MENU** を押します。

- プロジェクターかリモコンの矢印キー (▲/▼/◀/▶) を使って、メニューアイテムを移動します。
- プロジェクターかリモコンの **ENTER** を押して、メニューをオンにします。

プロジェクターの保護

セキュリティケーブルロックの使い方

盗難防止のために、プロジェクターは安全な場所に設置してください。または、ロックを購入してプロジェクターを固定してください。プロジェクターにはセキュリティバーがあります。ページ 15 の項目 24 をご覧ください。

パスワード機能を使用する

パスワードの設定

1. システム設定 : 詳細 > パスワードを選択します。ENTER を押します。するとパスワードページが表示されます。
2. パスワードの変更を選択し、ENTER を押します。
3. 4 方向矢印キー (▲、▼、◀、▶) はそれぞれ 4 枝 (1、2、3、4) を示しています。矢印キーを押して、6 枝のパスワードを入力して設定します。
4. 新しいパスワードを再度入力して新しいパスワードを確認してください。
パスワードの設定が完了すると、オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューはパスワードページに戻ります。
5. パワーオンロック機能を有効にするには、▲/▼ を押して、パワーオンロックを選択し、次に ◀/▶ を押してオンを選択してください。再度同じパスワードを入力します。



- 入力した数字は画面上にはアスタリスク (*) で表示されます。本書の下の欄に設定したパスワードを書き留めておいてください。
- 一度パスワードを設定してパワーオンロックを有効にすると、プロジェクターを起動するたびに正しいパスワードを入力しなければプロジェクターを使用することはできなくなります。



パスワードを忘れた場合

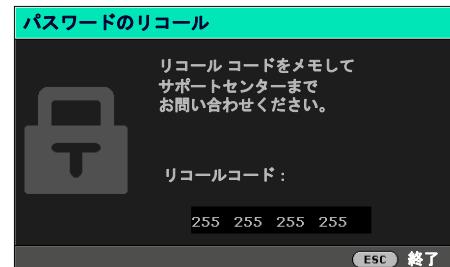
間違ったパスワードを入力すると、パスワードエラーメッセージが表示され、次に「現在のパスワード」というメッセージが表示されます。パスワードを完全に忘れてしまった場合は、パスワードのリコールを行ってください。29 ページの「パスワードの呼び戻しを行うには」を参照してください。

パスワード入力を続けて 5 回間違えると、プロジェクターは間もなく自動的にシャットダウンします。



パスワードの呼び戻しを行うには

1. **ENTER** を 3 秒間押し続けます。スクリーン上にコード化された番号が表示されます。
2. 番号を書き留めて、プロジェクトをオフにしてください。
3. 番号を解読するには、お近くの「修理に関するお問合せ先」までお問い合わせください。お客様がこのプロジェクトを使用できる正当なユーザーであることを確認するために、購入を証明する文書の提示を求められる場合があります。



パスワードの変更

1. システム設定 : 詳細 > パスワード > パスワードの変更を選択します。
2. **ENTER** を押します。すると「現在のパスワード」というメッセージが表示されます。
3. 古いパスワードを入力してください。
 - パスワードが正しければ、「新しいパスワード」というメッセージが表示されます。
 - パスワードが間違っていれば、パスワードエラーメッセージが表示され、「現在のパスワード」というメッセージが表示されますので、もう一度パスワードを正しく入力してください。変更内容をキャンセルするか、別のパスワードを入力するには、**ESC** を押してください。
4. 新しいパスワードを入力します。
5. 新しいパスワードを再度入力して新しいパスワードを確認してください。

パスワード機能を無効にする

パスワード保護を解除するには、システム設定 : 詳細 > パスワード > パワーオンロックを選択し、◀/▶ を押してオフを選択します。すると「現在のパスワード」というメッセージが表示されます。現在のパスワードを入力してください。

- パスワードが正しく入力されると、OSD メニューのパスワードページに戻ります。次回プロジェクトをオンにするときには、パスワードを入力する必要はありません。
- パスワードが間違っていれば、パスワードエラーメッセージが表示され、「現在のパスワード」というメッセージが表示されますので、もう一度パスワードを正しく入力してください。変更内容をキャンセルするか、別のパスワードを入力するには、**ESC** を押してください。



パスワード機能を無効にしても、再びパスワード機能を有効にするときに古いパスワードを入力するよう要求されますので、古いパスワードは忘れないように記録し保管しておいてください。

入力信号の切り替え

プロジェクターは同時に複数の装置に接続することができます。ただし一度に表示できる装置は1台です。起動時にプロジェクターは自動的に有効な信号を検出します。

プロジェクターに自動的に信号を検出させるためには、**システム設定** : **基本** > **自動入力の検索**メニューがオンになっていることを確認してください。

ソースの選択 :

1. **INPUT** を押します。するとソース選択バーが表示されます。
2. 任意の信号が選択されるまで **▲/▼** を押し、次に **ENTER** を押します。

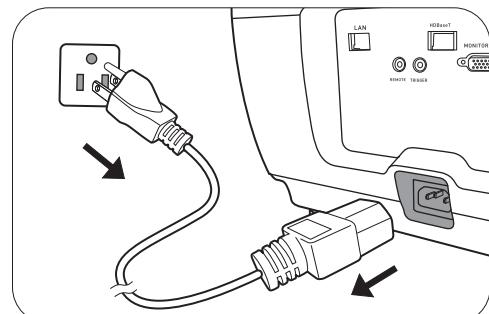
信号が検出されたら、選択したソース情報が画面の隅に数秒間表示されます。プロジェクターに複数の装置が接続されている場合は、ステップ1-2を繰り返すと別の信号を検出することができます。



- 入力信号を変えると、そのたびに投写画像の輝度も変わります。
- 最高の画質を得るには、プロジェクターのネイティブ解像度で出力できる入力信号を選択、使用する必要があります。これ以外の解像度を使用すると、「縦横比」の設定によってプロジェクターが画像の縦横比を変更してしまうため、画像が歪んだり、鮮明さが失われたりします。[34 ページの「縦横比」](#)を参照してください。

プロジェクターをシャットダウンする

1. **POWER** を押すと、確認を促すメッセージが表示されます。数秒以内に応答しなければ、メッセージは自動的に消えます。
2. 再び **POWER** を押します。
3. 電源インジケーターが赤く点灯し、ファンが停止します。電源コードをコンセントから抜きます。



電源コードを外した後もインジケーターが点灯したままになっている場合があります。これは故障ではありません。

メニューの操作

オンスクリーンディスプレイ (OSD) メニューは、選択した信号のタイプと使用するプロジェクターのモデルにより異なります。

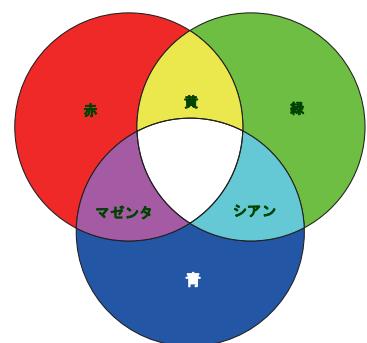
メニューアイテムはプロジェクターが最低 1 つの有効な信号を検出しなければ有効にはなりません。プロジェクターに装置が接続されていなかったり、信号が何も検出されなければ、限られたメニューアイテムにしかアクセスすることができません。

ピクチャメニュー

ピクチャ モード	<p>このプロジェクターは操作環境や入力信号のピクチャタイプによって自由に選択できるように、いくつかのピクチャモードが設定されています。</p> <ul style="list-style-type: none">• Bright : 画像の輝度を最大限明るくします。このモードは、輝度を最高に明るくする必要がある環境に適しています（プロジェクターを明るい部屋で使用する場合など）。• Vivid : Natural モードよりもやや明るく、十分な照明がない部屋でのプレゼンテーションに適しています。• Natural : 低い輝度で彩度とコントラストのバランスが良くとれています。プレゼンテーションに最適です。• User 1/User 2 : 現在有効なピクチャモードを元にカスタマイズした設定を呼び出します。31 ページの「ユーザーモード設定」を参照してください。
ユーザーモード設定	<p>現在有効なピクチャモードが目的に合致しない場合は、2 種類のモードをユーザー定義することができます。ピクチャモードの 1 つ (User 1/User 2 以外) をスタートイングポイントとして使用し、そこから設定をカスタマイズすることができます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 設定の読み込み<ol style="list-style-type: none">1. ピクチャ > ピクチャ モードを選択します。2. ◀/▶ を押して User 1 または User 2 を選択します。3. ▼ を押してユーザーモード設定を選択し、次に ENTER を押してください。するとユーザーモード設定ページが表示されます。4. 設定の読み込みを選択し、ENTER を押します。5. ▲/▼ を押して、用途に最も合ったピクチャモードを選択します。6. 完了したら、ENTER と ESC を使ってピクチャメニューに戻ってください。7. ▼ を押して変更したいサブメニューアイテムを選択し、◀/▶ を使って値を調整します。調整内容によって選択したユーザーモードが定義されます。

<p>ユーザー モード設定 (続き)</p>	<p>• ユーザー モード名変更</p> <p>カスタマイズしたピクチャモードに別名を付けます (User 1 または User 2)。新しい名前はアルファベット (A-Z, a-z)、数字 (0-9)、およびスペース (_) を使って 6 文字以内で指定することができます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ピクチャ > ピクチャ モードを選択します。 2. ◀/▶ を押して User 1 または User 2 を選択します。 3. ▼ を押してユーザー モード設定を選択し、次に ENTER を押してください。するとユーザー モード設定ページが表示されます。 4. ▼ を押してユーザー モード名変更を選択し、次に ENTER を押してください。するとユーザー モード名変更ページが表示されます。 5. ▲/▼/◀/▶ を使って文字を選択します。 6. 完了したら、ESC キーを押して終了します。
<p>明るさ</p>	<p>値を高くするほどイメージの明るさが増加します。このコントロールを調整すると、イメージの黒い領域が黒く表示されるため、暗い領域の詳細が見えるようになります。</p>
<p>コントラスト</p>	<p>値を高くするほどコントラストが増加します。選択した入力と表示環境に合わせて輝度を調整した後、これを使って白のピークレベルを設定することができます。</p>
<p>色</p>	<p>設定を下げるほど、彩度が低くなります。逆に値を上げすぎると、画像の色が不自然に強調されてしまいます。</p>
<p>色合い</p>	<p>値を高くするほど緑がかった画像になります。値を低くするほど赤みがかった画像になります。</p>
<p>シャープネス</p>	<p>値を高くするほど画像がシャープになります。</p>
<p>詳細設定</p>	<p>• ガンマの選択</p> <p>ガンマとは、入力ソースと画像の輝度の関連性のことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1.6/1.8/2.0/2.1 : 必要に応じてこれらの値を選択します。 • 2.2/2.3 : 画像の輝度を上げます。明るい環境、会議室、リビングルームに最適です。 • 2.4/2.5 : 暗室でムービーを鑑賞するのに最適です。 • 2.6/2.8 : ほとんどが暗いシーンで構成されるムービーに最適です。 <div data-bbox="498 1635 1440 1684" style="display: flex; justify-content: space-between;"> 高輝度 低コントラスト 低輝度 高コントラスト </div> <div data-bbox="626 1747 1275 1776" style="text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>1.6 1.8 2.0 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 2.8</p> </div>

	<p>• 色温度</p> <p>いくつかのプリセット色温度設定が使用できます。設定は、選択した入力タイプによって異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 標準：白の色合いを通常に保ちます。 • 高い：画像を青みがかった白で表示します。 • 低い：画像を赤みがかった白で表示します。 <p>次のオプションを調整すると、任意の色温度を設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 赤ゲイン / 緑ゲイン / 青ゲイン：赤、緑、青のコントラストレベルを調整します。 • 赤オフセット / 緑オフセット / 青オフセット：赤、緑、青の輝度レベルを調整します。
<p>詳細設定（続き）</p>	<p>• 3D カラーマネジメント</p> <p>カラーマネジメントでは、6色 (RGBCMY) を調整することができます。それぞれの色を選択すると、その色の範囲と彩度を個別に自在に調整することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 原色：赤、黄、緑、シアン、青、マゼンタの中から色を選択します。 • 色相：範囲を広げると、隣り合う2色のより広い範囲の色が含まれます。各色がどのように関連し合っているかについては、図を参照してください。 <p>例えば、赤を選択し、その範囲を0に設定した場合、投写画像の中で純粋な赤だけが選択されます。範囲を広げると、黄に近い赤やマゼンタに近い赤も含まれます。</p> • ゲイン：見やすいように値を調整してください。選択した原色のコントラストレベルが影響を受けます。調整内容は直ちに画像に反映されます。 • 彩度：見やすいように値を調整してください。調整内容は直ちに画像に反映されます。例えば、赤を選択し、その範囲を0に設定した場合、純粋な赤の彩度だけが影響を受けます。 <p></p> <p>彩度はビデオ映像の色の量のことです。値を低くすると彩度が低くなります。「0」に設定すると、画像から完全に色を抜いてしまいます。彩度が高すぎると、色が濃すぎて非現実的な色になってしまいます。</p>



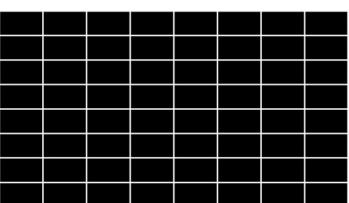
詳細設定（続き）	<ul style="list-style-type: none"> • MoviePro <ul style="list-style-type: none"> • カラーエンハンス：彩度を柔軟に調整することができます。これは、飽和色、感触、中間色相、微妙なピグメントを完璧にレンダリングするために、複雑な色アルゴリズムを調整します。 • スキントーン：人のスキントーンを調整するために、画像の他の色は一切変更せず、色相のみをスマートに調整します。これは、投写光線により肌の色が抜け落ちるのを防ぎ、肌の色を最も美しいシェードで再現します。 • 超解像：色、コントラスト、テクスチャなどの要素において、Full HD コンテンツを大幅に向上させる超高解像度テクノロジーです。これは解像感を向上させる技術でもあり、スクリーンから飛び出てくるような生き生きとした映像を忠実に再現します。シャープネス レベルと詳細な要素を細かく調整できます。
現在のピクチャモードをリセット	<p>選択したピクチャ モード（Bright/Vivid/Natural/User 1/User 2 を含む）の調整内容がすべて初期値に戻されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ENTER を押します。すると確認のメッセージが表示されます。 2. ◀/▶ を押して リセット を選択し、ENTER を押してください。現在のピクチャモードが工場出荷時の設定に戻ります。

表示メニュー

縦横比	<p>入力信号ソースによって、画像の縦横比を設定するいくつかのオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自動：画像をプロジェクター本来の解像度の水平幅または垂直高に合わせて表示します。 • 4:3：スクリーンの中央が 4:3 の縦横比になるようにイメージを調整します。 • 16:9：スクリーンの中央が 16:9 の縦横比になるようにイメージを調整します。 • 16:10：スクリーンの中央が 16:10 の縦横比になるようにイメージを調整します。 <p>! 商用またはパブリックプレゼンテーション向けに ASPECT キーを使って画像サイズを調整すると、本来の素材の著作権所有者の法的著作権を侵害することになるかもしれません。</p>
イメージの位置	<p>位置調整ページが開きます。投写画像を移動させるには、方向矢印キーを使用します。この機能は PC 信号（アナログ RGB）が選択されている場合にしか使用できません。</p>
オーバースキャン調整	<p>四辺の画質が悪いエリアを隠します。</p> <p>値を高くするほどより多くのエリアが隠され、スクリーンは幾何学的に正確に埋め尽くされます。0 に設定すると、画像が 100% 完全に表示されます。</p>

位相	クロックフェーズを調整して画像の歪みを軽減します。 	
	この機能は PC 信号（アナログ RGB）が選択されている場合にしか使用できません。	

設置メニュー

プロジェクター モード	このプロジェクターは、天井やスクリーンの背後に設置することができます。18 ページの「設置場所の選択」を参照してください。
テストパターン	画像サイズとフォーカスを調整するために使用し、投写画像が歪んでいないかをチェックします。テストパターンを終了するには、MENU を押してオフを選択します。 
光源設定	<ul style="list-style-type: none"> 光源モード：光源モードの中から光源を選択します。49 ページの「省エネ」を参照してください。 光源情報：49 ページの「光源使用時間について知る」を参照してください。
12V トリガー	設置状況に応じて必要な場合に機能する 12V トリガーが 1 個あります。2 つの選択肢の中から選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> オフ：プロジェクターの電源を入れたとき、電子信号を送信しません。 オン：プロジェクターの電源を入れると、電子信号レベルを徐々に上げていきます。一方、プロジェクターの電源を切ると、電子信号レベルを徐々に下げていきます。
高地モード	<p>海拔 1500 m ~ 3000 m、気温 5 °C ~ 30 °C の環境で本製品を使用する場合は、高地モードを使用されるようお勧めします。</p> <p>「高地モード」を選択した場合は、システムの性能を維持するために冷却ファンが回転速度を速めるために操作ノイズが高くなる場合があります。上記の場合を除き、それ以外の極限環境でプロジェクターを使用すると、プロジェクターが自動的にシャットダウンする場合があります。これはプロジェクターを過熱から保護するために施された機能です。このような場合は、高地モードに切り替えてみてください。ただし、これはこのプロジェクターが極限状態でも操作可能であるということを保証するものではありません。</p> <p></p> <p>高度 0 m ~ 1500 m、温度 5 °C ~ 35 °C の範囲内では高地モードは使用しないでください。このような環境でこのモードを有効にすると、プロジェクターが過度に冷却されてしまいます。</p>

システム設定：基本メニュー

言語	オンスクリーン ディスプレイ (OSD) メニューの言語を設定します。
背景色	プロジェクターの背景色を設定します。
起動画面	プロジェクターが起動したとき、プロジェクターの起動画面を選択できます。
自動パワーオフ	一定期間内に入力信号が検出されない場合は、プロジェクターを自動的にオフにします。
ダイレクトパワーオン	電源コードから電源が供給されると、プロジェクターは自動的にオンになります。
メニュー設定	<ul style="list-style-type: none">メニュー位置：オンスクリーン ディスプレイ (OSD) メニューの位置を調整します。メニュー表示時間：最後にキーを押してからの OSD の表示時間を設定します。アラームメッセージ：アラーム メッセージをオンまたはオフにします。
入力に別名を付ける	現在の入力ソースに別名を付けます。 矢印キー [Δ / ∇ / \blacktriangleleft / \blacktriangleright] を使って、文字を選択し、ENTER で決定して下さい。 完了したら、ESC を押して変更内容を保存して終了します。
自動入力の検索	プロジェクターで信号を自動検出させるにはオンにします。

システム設定：詳細メニュー

オーディオ音量出力	サウンド レベルを調整します。
ミュート	サウンドを一時的に切れます。
HDMI 範囲	色の精度を補正するには、適切な RGB 色範囲を選択します。 <ul style="list-style-type: none">自動：受信した HDMI 信号の色域を自動的に選択します。フル範囲：フル範囲の RGB 0-255 を使用します。制限付き範囲：制限付き範囲の RGB 16-235 を使用します。
パスワード	28 ページの「パスワード機能を使用する」を参照してください。
パネルキー ロック	プロジェクターとリモコンのコントロールキーをロックしておくと、(例えばお子様によって) プロジェクターの設定が誤って変更されるのを防止することができます。パネルキー ロックがオンのとき、プロジェクターとリモコンの操作キーは電源オン/スタンバイ \downarrow 以外は機能しません。 パネルキーのロックを解除するには、プロジェクターからリモコンで 3 秒間 \blacktriangleright (右のキー) を押します。  パネルキー ロックを無効にせずにプロジェクターをオフにすると、プロジェクターを次回オンにしたときにもロックされたままの状態になっています。

シリアルポートの設定	制御ポートを選択できます：RS-232C ポート（プロジェクターの SERIAL ポート）または HDBaseT ポート（プロジェクターの HDBaseT 入力ポート）から。										
ネットワーク設定	<p>このプロジェクターにはネットワーク機能が搭載されています。プロジェクターとリモートコンピューターが同じ LAN に正しく接続されている場合は、ウェブブラウザを使ってプロジェクターをリモートコンピューターから管理、操作することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 有線 LAN <ul style="list-style-type: none"> • 状態：接続状態を表示します。 • DHCP：DHCP 環境でオンを選択すると、IP アドレス、サブネットマスク、既定のゲートウェイ、DNS サーバー設定が自動的に取得されます。DHCP 以外の環境ではオフを選択して次の設定を調整してください。 <table border="1"> <tr> <td>• IP アドレス</td><td>DHCP がオフに設定されている場合のみ使用可能です。◀/▶ を使って欄を選択し、▲/▼ を使って値を調整します。</td></tr> <tr> <td>• サブネットマスク</td><td></td></tr> <tr> <td>• 既定のゲートウェイ</td><td></td></tr> <tr> <td>• DNS サーバー</td><td></td></tr> <tr> <td>• 適用</td><td>次の設定を行います。</td></tr> </table> <p></p> <p>リモートコンピューターからプロジェクターを操作する方法については、39 ページの「プロジェクターの遠隔操作」をお読みください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AMX デバイス検索：この機能がオンのときには、プロジェクターを AMX コントローラで検出することができます。 • MAC アドレス：このプロジェクターの mac アドレスを表示します。 	• IP アドレス	DHCP がオフに設定されている場合のみ使用可能です。◀/▶ を使って欄を選択し、▲/▼ を使って値を調整します。	• サブネットマスク		• 既定のゲートウェイ		• DNS サーバー		• 適用	次の設定を行います。
• IP アドレス	DHCP がオフに設定されている場合のみ使用可能です。◀/▶ を使って欄を選択し、▲/▼ を使って値を調整します。										
• サブネットマスク											
• 既定のゲートウェイ											
• DNS サーバー											
• 適用	次の設定を行います。										
ネットワーク待機	<ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク待機を有効化：プロジェクターがスタンバイモードのときは、ネットワーク機能を提供します。 • ネットワーク待機を自動的に無効化：スタンバイモードに入ってから一定の時間が経過すると、ネットワーク機能が無効になります。たとえば、20 分と設定した場合、プロジェクターがスタンバイモードになってから 20 分間ネットワーク機能が提供されます。20 分過ぎると、プロジェクターは通常のスタンバイモードに入ります。 										
全設定をリセット	<p>すべての設定を工場出荷時の値に戻します。</p> <p></p> <p>次の設定は現在の設定値のまま維持されます：ピクチャ モード、ユーザー モード設定、明るさ、コントラスト、色、色合い、シャープネス、詳細設定、プロジェクターモード、入力に別名を付ける、オーディオ音量出力、ミュート、パスワード、ネットワーク設定、ネットワーク待機、縦横比、シリアルポートの設定。</p>										

情報メニュー

入力	現在の信号ソースを表示します。
ピクチャ モード	ピクチャメニューで選択したモードを表示します。
解像度	入力信号のネイティブ解像度を表示します。
カラー システム	入力システムフォーマットを表示します。
光源使用時間	光源の累積使用時間を表示します。
ファームウェア バージョン	プロジェクターのファームウェアバージョンが表示されます。

プロジェクターの遠隔操作

プロジェクターに IP アドレスを正しく設定し、プロジェクターをオンまたはスタンバイモードにすると、同一 LAN 上にあるコンピューターからプロジェクターを操作することが可能になります。



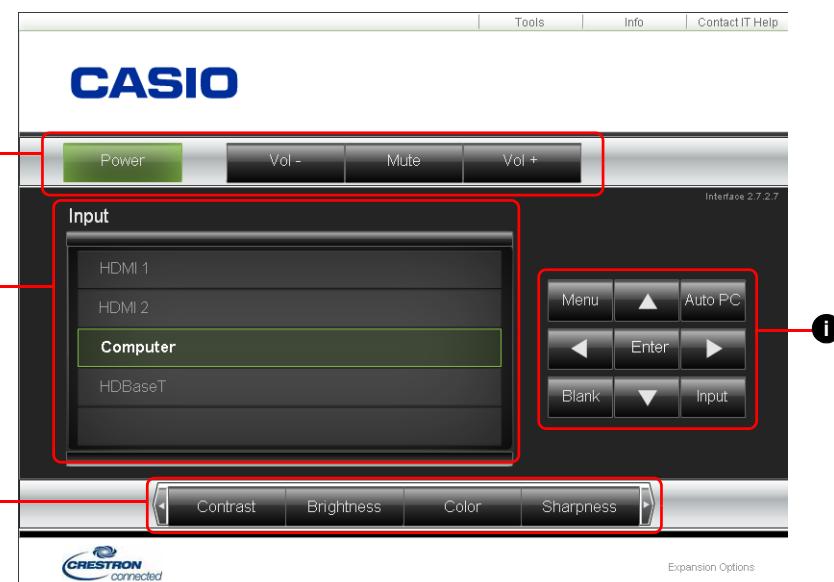
本書に記載されているスクリーンショットは参考用であり、実際の画面とは異なる場合があります。

1. ブラウザのアドレスバーにプロジェクターのアドレスを入力し、Enter を押します。



2. Crestron (eControl) ページでは、Crestron eControl ユーザーインターフェイスが表示されます。eControl ページでは、プロジェクターを操作したり、投写画像を調整したりするための各種ボタンを使用できます。

- メインページ



- i. これらのボタンは、OSD メニュー、プロジェクター、リモコンと同じ機能を果たします。詳細は、16 ページの「プロジェクターとリモコン」と 31 ページの「メニューの操作」を参照してください。ただし、前の OSD メニューに戻る、またはメニュー設定を保存してメニューを終了するには、MENU キーを押す必要があります。
- ii. 入力ソースを切り替えるには、任意の信号をクリックしてください。

• Tools (ツール) ページ

Tools (ツール) ページでは、このプロジェクターでプロジェクターを管理したり、LAN 操作の設定を行ったり、リモートネットワーク操作のセキュアアクセスを設定したりすることができます。



- i. プロジェクターに名前を付けたり、プロジェクターの場所や担当者を確認したりすることができます。
- ii. ネットワーク設定を調整できます。
- iii. パスワードを設定すると、このプロジェクターのリモートネットワーク操作がパスワードで保護されます。
- iv. パスワードを設定すると、Tools (ツール) ページへのアクセスがパスワードで保護されます。



調整後は、Send (送信) ボタンを押すとデータがプロジェクターに保存されます。

- v. このボタンを押すと、リモートネットワーク操作ページに戻ります。

- Info (情報) ページ

Info (情報) ページには、このプロジェクターの情報と状態が表示されます。



- このボタンを押すと、リモートネットワーク操作ページに戻ります。

PJLink コマンド

このプロジェクターは、プロジェクターを制御するために標準のプロトコル PJLink に対応しています。サポートされるコマンドは次のとおりです。

コマンド	制御内容	備考
POWR	電源コントロール	パラメーター 0 = スタンバイ 1 = 電源オン
POWR ?	電源状態問合せ	パラメーター 0 = スタンバイ 1 = 電源オン
INST ?	入力切り替え一覧問合せ	No.1 11 No.2 31 No.3 32 No.4 51
INPT	入力選択	パラメーター 11 : RGB 1 31 : HDMI 1
INPT ?	入力切り替え問合せ	32 : HDMI 2 51 : HDBaseT
AVMT	AV MUTE コントロール	パラメーター VIDEO & AUDIO MUTE モード オフ
AVMT ?	AV ミュート状態問合せ	VIDEO & AUDIO MUTE モード オン
ERST ?	エラー状態問合せ	パラメーター 第 1 バイト : ファンエラー、範囲 0、2 第 2 バイト : 光源エラー、範囲 0、2 第 3 バイト : 温度エラー、範囲 0、2 第 4 バイト : 0 に固定 0 または 2 からの各値は次のように定義されています。 0 = エラーなし 1 = 警告 2 = エラー
LAMP ?	ランプ数・ランプ時間問合せ	パラメーター 第 1 枠 (1 - 5 枠) : 光源使用時間
NAME ?	プロジェクター / ディスプレイ名問合せ	「CASIO」と返されます。
INF1 ?	メーカー名問合せ	「CASIO」と返されます。
INF2 ?	機種名問合せ	「XJ-L8300HN」と返されます。
INFO ?	その他問合せ	「」(NULL) が返されます。
CLSS ?	クラス情報問合せ	「1」が返されます。



詳細は、CASIO ホームページをご覧ください。

<http://world.casio.com/download/projector/>

プロジェクター RS-232C の制御

RS-232C コマンドを使ってコンピューターからプロジェクターを操作するには、市販のシリアルケーブル（クロス）を使ってプロジェクターとコンピューターを接続する必要があります。

インターフェイスの設定

RS-232C プロトコル	
ボーレート	9600 に固定
データ長	8 ビット
パリティチェック	なし
ストップビット	1 ビット
フロー制御	なし

コマンド表

機能	タイプ	操作	ASCII
電源	書き込み	電源オン	<CR>*pow=on#<CR>
	書き込み	電源オフ	<CR>*pow=off#<CR>
	読み取り	電源状態	<CR>*pow=?#<CR>
ソース選択	書き込み	COMPUTER/YpbPr	<CR>*sour=RGB#<CR>
	書き込み	HDMI 1	<CR>*sour=hDMI#<CR>
	書き込み	HDMI 2	<CR>*sour=hDMI2#<CR>
	書き込み	HDBaseT	<CR>*sour=hdbaset#<CR>
	読み取り	現在のソース	<CR>*sour=?#<CR>
オーディオ	書き込み	ミュートオン	<CR>*mute=on#<CR>
	書き込み	ミュートオフ	<CR>*mute=off#<CR>
	読み取り	ミュートの状態	<CR>*mute=?#<CR>
	書き込み	音量を上げる	<CR>*vol=+##<CR>
	書き込み	音量を下げる	<CR>*vol=-##<CR>
	書き込み	音量 = 値	<CR>*vol=value#<CR>
	読み取り	音量の状態	<CR>*vol=?#<CR>
ピクチャ モード	書き込み	Bright	<CR>*appmod=bright#<CR>
	書き込み	Vivid	<CR>*appmod=vivid#<CR>
	書き込み	Natural	<CR>*appmod=natural#<CR>
	書き込み	User 1	<CR>*appmod=user1#<CR>
	書き込み	User 2	<CR>*appmod=user2#<CR>
	読み取り	ピクチャ モード	<CR>*appmod=?#<CR>

ピクチャ設定	書き込み	コントラスト +	<CR>*con=+#+<CR>
	書き込み	コントラスト -	<CR>*con=-#+<CR>
	読み取り	コントラスト値	<CR>*con=?#+<CR>
	書き込み	明るさ +	<CR>*bri=+#+<CR>
	書き込み	明るさ -	<CR>*bri=-#+<CR>
	読み取り	明るさ値	<CR>*bri=?#+<CR>
	書き込み	色 +	<CR>*color=+#+<CR>
	書き込み	色 -	<CR>*color=-#+<CR>
	読み取り	色値	<CR>*color=?#+<CR>
	書き込み	色合い +	<CR>*tint=+#+<CR>
	書き込み	色合い -	<CR>*tint=-#+<CR>
	読み取り	色合い値	<CR>*tint=?#+<CR>
	書き込み	シャープネス +	<CR>*sharp=+#+<CR>
	書き込み	シャープネス -	<CR>*sharp=-#+<CR>
	読み取り	シャープネス値	<CR>*sharp=?#+<CR>
	書き込み	スキントーン +	<CR>*skintone=+#+<CR>
	書き込み	スキントーン -	<CR>*skintone=-#+<CR>
	読み取り	スキントーン値	<CR>*skintone=?#+<CR>
	書き込み	色温度 - 低い	<CR>*ct=warm#+<CR>
	書き込み	色温度 - 標準	<CR>*ct=normal#+<CR>
	書き込み	色温度 - 高い	<CR>*ct=cool#+<CR>
	読み取り	色温度の状態	<CR>*ct=?#+<CR>
	書き込み	縦横比 4:3	<CR>*asp=4:3#+<CR>
	書き込み	縦横比 16:9	<CR>*asp=16:9#+<CR>
	書き込み	縦横比 16:10	<CR>*asp=16:10#+<CR>
	書き込み	縦横比 自動	<CR>*asp=AUTO#+<CR>
	読み取り	縦横比の状態	<CR>*asp=?#+<CR>
	書き込み	オーバースキャンの調整 +	<CR>*overscan=+#+<CR>
	書き込み	オーバースキャンの調整 -	<CR>*overscan=-#+<CR>
	読み取り	オーバースキャンの調整値	<CR>*overscan=?#+<CR>
	書き込み	自動調整	<CR>*auto#+<CR>
	書き込み	赤ゲイン +	<CR>*RGain=+#+<CR>
	書き込み	赤ゲイン -	<CR>*RGain=-#+<CR>
	読み取り	赤ゲイン値	<CR>*RGain=?#+<CR>
	書き込み	緑ゲイン +	<CR>*GGain=+#+<CR>
	書き込み	緑ゲイン -	<CR>*GGain=-#+<CR>
	読み取り	緑ゲイン値	<CR>*GGain=?#+<CR>
	書き込み	青ゲイン +	<CR>*BGain=+#+<CR>
	書き込み	青ゲイン -	<CR>*BGain=-#+<CR>
	読み取り	青ゲイン値	<CR>*BGain=?#+<CR>

ピクチャ設定	書き込み	赤オフセット +	<CR>*ROffset=+#+<CR>
	書き込み	赤オフセット -	<CR>*ROffset=-#+<CR>
	読み取り	赤オフセット値	<CR>*ROffset=?#+<CR>
	書き込み	緑オフセット +	<CR>*GOffset=+#+<CR>
	書き込み	緑オフセット -	<CR>*GOffset=-#+<CR>
	読み取り	緑オフセット値	<CR>*GOffset=?#+<CR>
	書き込み	青オフセット +	<CR>*BOffset=+#+<CR>
	書き込み	青オフセット -	<CR>*BOffset=-#+<CR>
	読み取り	青オフセット値	<CR>*BOffset=?#+<CR>
	書き込み	ガンマ選択 -1.6	<CR>*gamma=1.6#+<CR>
	書き込み	ガンマ選択 -1.8	<CR>*gamma=1.8#+<CR>
	書き込み	ガンマ選択 -2.0	<CR>*gamma=2.0#+<CR>
	書き込み	ガンマ選択 -2.1	<CR>*gamma=2.1#+<CR>
	書き込み	ガンマ選択 -2.2	<CR>*gamma=2.2#+<CR>
	書き込み	ガンマ選択 -2.3	<CR>*gamma=2.3#+<CR>
	書き込み	ガンマ選択 -2.4	<CR>*gamma=2.4#+<CR>
	書き込み	ガンマ選択 -2.5	<CR>*gamma=2.5#+<CR>
	書き込み	ガンマ選択 -2.6	<CR>*gamma=2.6#+<CR>
	書き込み	ガンマ選択 -2.8	<CR>*gamma=2.8#+<CR>
	読み取り	ガンマ選択の状態	<CR>*gamma=?#+<CR>

操作設定	書き込み	起動画面 - CASIO	<CR>*splash=casio#<CR>
	書き込み	起動画面 - 黒	<CR>*splash=black#<CR>
	書き込み	起動画面 - 青	<CR>*splash=blue#<CR>
	読み取り	起動画面の状態	<CR>*splash=?#<CR>
	書き込み	背景色 - 緑	<CR>*background=green#<CR>
	書き込み	背景色 - 黒	<CR>*background=black#<CR>
	書き込み	背景色 - 青	<CR>*background=blue#<CR>
	読み取り	背景色の状態	<CR>*background=?#<CR>
	書き込み	プロジェクター モード - 正面	<CR>*pp=FT#<CR>
	書き込み	プロジェクター モード - 背面	<CR>*pp=RE#<CR>
	書き込み	プロジェクター モード - 天井背面	<CR>*pp=RC#<CR>
	書き込み	プロジェクター モード - 天井正面	<CR>*pp=FC#<CR>
	読み取り	プロジェクター モードの状態	<CR>*pp=?#<CR>
	書き込み	自動入力の検索 - オン	<CR>*QAS=on#<CR>
	書き込み	自動入力の検索 - オフ	<CR>*QAS=off#<CR>
	読み取り	自動入力の検索の状態	<CR>*QAS=?#<CR>
	書き込み	メニュー表示時間 - 常にオン	<CR>*menutime=on#<CR>
	書き込み	メニュー表示時間 - 5 秒	<CR>*menutime=5s#<CR>
	書き込み	メニュー表示時間 - 10 秒	<CR>*menutime=10s#<CR>
	書き込み	メニュー表示時間 - 15 秒	<CR>*menutime=15s#<CR>
	書き込み	メニュー表示時間 - 20 秒	<CR>*menutime=20s#<CR>
	書き込み	メニュー表示時間 - 25 秒	<CR>*menutime=25s#<CR>
	書き込み	メニュー表示時間 - 30 秒	<CR>*menutime=30s#<CR>
	読み取り	メニュー表示時間の状態	<CR>*menutime=?#<CR>
	書き込み	メニュー位置 - 中央	<CR>*menuposition=center#<CR>
	書き込み	メニュー位置 - 左上	<CR>*menuposition=tl#<CR>
	書き込み	メニュー位置 - 右上	<CR>*menuposition=tr#<CR>
	書き込み	メニュー位置 - 右下	<CR>*menuposition=br#<CR>
	書き込み	メニュー位置 - 左下	<CR>*menuposition=bl#<CR>
	読み取り	メニュー位置の状態	<CR>*menuposition=?#<CR>
	書き込み	アラームメッセージ - オン	<CR>*reminder=on#<CR>
	書き込み	アラームメッセージ - オフ	<CR>*reminder=off#<CR>
	読み取り	アラームメッセージの状態	<CR>*reminder=?#<CR>
	書き込み	ダイレクトパワーオン - オン	<CR>*directpower=on#<CR>
	書き込み	ダイレクトパワーオン - オフ	<CR>*directpower=off#<CR>
	読み取り	ダイレクトパワーオンの状態	<CR>*directpower=?#<CR>
	書き込み	ネットワーク待機を有効化 - オン	<CR>*standbynet=on#<CR>
	書き込み	ネットワーク待機を有効化 - オフ	<CR>*standbynet=off#<CR>
	読み取り	ネットワーク待機を有効化の状態	<CR>*standbynet=?#<CR>

光源制御	読み取り	光源使用時間	<CR>*ltim=?#<CR>
	書き込み	標準モード	<CR>*lampm=lnor#<CR>
	書き込み	Eco モード	<CR>*lampm=eco#<CR>
	書き込み	360 & ポートレート	<CR>*lampm=portrait360#<CR>
	読み取り	光源モードの状態	<CR>*lampm=?#<CR>
その他	読み取り	型番	<CR>*modelname=?#<CR>
	書き込み	ブランク - オン	<CR>*blank=on#<CR>
	書き込み	ブランク - オフ	<CR>*blank=off#<CR>
	読み取り	ブランクの状態	<CR>*blank=?#<CR>
	書き込み	メニューオン	<CR>*menu=on#<CR>
	書き込み	メニューオフ	<CR>*menu=off#<CR>
	書き込み	上	<CR>*up#<CR>
	書き込み	下	<CR>*down#<CR>
	書き込み	右	<CR>*right#<CR>
	書き込み	左	<CR>*left#<CR>
	書き込み	入力 /ENTER	<CR>*enter#<CR>
	書き込み	戻る	<CR>*back#<CR>
	書き込み	言語 +	<CR>*lang=+#<CR>
	書き込み	言語 -	<CR>*lang=-#<CR>
	読み取り	言語の状態	<CR>*lang=?#<CR>
	書き込み	自動パワーオフ - 無効	<CR>*APOFF=DIS#<CR>
	書き込み	自動パワーオフ - 5 分	<CR>*APOFF=5#<CR>
	書き込み	自動パワーオフ - 10 分	<CR>*APOFF=10#<CR>
	書き込み	自動パワーオフ - 15 分	<CR>*APOFF=15#<CR>
	書き込み	自動パワーオフ - 20 分	<CR>*APOFF=20#<CR>
	書き込み	自動パワーオフ - 25 分	<CR>*APOFF=25#<CR>
	書き込み	自動パワーオフ - 30 分	<CR>*APOFF=30#<CR>
	読み取り	自動パワーオフの状態	<CR>*APOFF=?#<CR>
	書き込み	AMX デバイス検索 - オン	<CR>*amxdd=on#<CR>
	書き込み	AMX デバイス検索 - オフ	<CR>*amxdd=off#<CR>
	読み取り	AMX デバイス検索の状態	<CR>*amxdd=?#<CR>
	読み取り	Mac アドレス	<CR>*macaddr=?#<CR>
	書き込み	高地モードオン	<CR>*Highaltitude=on#<CR>
	書き込み	高地モードオフ	<CR>*Highaltitude=off#<CR>
	読み取り	高地モードの状態	<CR>*Highaltitude=?#<CR>
	書き込み	パネルキーロック - オン	<CR>*keylock=on#<CR>
	書き込み	パネルキーロック - オフ	<CR>*keylock=off#<CR>
	読み取り	パネルキーロックの状態	<CR>*keylock=?#<CR>

メンテナンス

プロジェクターのお手入れ

レンズのクリーニング

表面に汚れやほこりが付いていたら、レンズのお手入れが必要です。レンズのお手入れを開始する前に、プロジェクターをオフにして完全に冷却してください。

- ・汚れやしみが付いた場合は、レンズクリーニングペーパーまたはレンズクリーナで湿らせた柔らかい布でレンズの表面を軽く拭きます。
- ・研磨用パッド、アルカリ性/酸性クレンザー、研磨剤入りパウダー、揮発性溶剤（アルコール、ベンジン、シンナー、殺虫剤）などは一切ご使用にならないでください。ゴムやビニール部分にこのような素材を使用したり、長期間これらを接触したままの状態にしておくと、プロジェクターの表面やキャビネットの素材を傷つける場合があります。

プロジェクター本体のお手入れ

本体のお手入れを行う前に、30ページの「プロジェクターをシャットダウンする」に記載されている正しい手順でプロジェクターの電源を切り、電源コードを抜いてください。

- ・ほこりや汚れを取り除くには、柔らかい、けば立ちのない布で拭きます。
- ・落ちにくい汚れやしみを取り除くには、柔らかな布を薄い中性洗剤に浸し、固くしぼって、本体を拭きます。



ワックス、アルコール、ベンジン、シンナー、その他の化学洗剤は使用しないでください。こうした薬剤を使用すると、本体を傷める場合があります。

プロジェクターの保管

長期間プロジェクターを保管する必要がある場合、次の手順に従ってください。

- ・保管場所の温度と湿度が、プロジェクターの推奨範囲内であることを確認します。詳細は、52ページの「仕様」を参照するか、販売店にお尋ねください。
- ・調整脚をおさめます。
- ・リモコンから電池を取り外します。
- ・プロジェクターを元の梱包または同等の梱包にします。

プロジェクターの移動

プロジェクターを搬送するときは、元の梱包または同等の梱包で行うことを推奨します。

光源ユニットについて

光源使用時間について知る

プロジェクターが作動している間、プロジェクターに内蔵されたタイマーが光源の使用時間(時間単位)を自動的に計算します。

光源の使用時間を知るには :

1. 設置 > 光源設定を選択して **ENTER** を押します。すると光源設定ページが表示されます。
2. ▼ を押して光源情報を選択し、**ENTER** を押してください。すると光源使用時間が表示されます。

また情報メニューでは光源時間情報を見ることもできます。

省エネ

・光源モードの設定

設置 > 光源設定 > 光源モードを選択して **◀/▶** を押すか、リモコンの **L. MODE** を押して選択肢の中から適切な光源モードを選択します。

プロジェクターを **Eco/360 & ポートレートモード** にすると節電できます。

光源モード	説明
標準	光源を完全に明るくします
Eco	輝度を下げて節電し、ファンノイズも低減させます
360 & ポートレート	輝度を下げて節電し、360 度ポートレートに最適です

・自動パワーオフの設定

この機能は、一定期間に入力信号が検出されない場合に節電のためにプロジェクターをオフにします。

自動パワーオフを設定するには、システム設定 : 基本 > 自動パワーオフを選択して **◀/▶** を押します。



- 投写イメージの輝度は、周辺光の状態および選択した入力信号のコントラスト / 輝度設定によって変わります。また投写距離の影響を直接受けます。
- 光源の輝度は時間の経過に伴い暗くなります。また輝度は光源の製造元の仕様によって異なります。これは故障ではありません。

インジケーター

ライト			状態と説明
POWER/ STANDBY	TEMP	LIGHT	
電源の状況			
●	○	○	待機モード（電源コードを外しても、インジケーターは点灯します。これは故障ではありません。）。
●	○	○	電源を入れています。
●	○	○	通常動作状態です。
●	○	○	通常の電源オフ冷却プロセスです。
●	○	●	蛍光 / カラーホイールが作動しません。
●	○	●	蛍光 / カラーホイールがスピンしません。
光源イベント			
○	○	●	通常動作時に光源エラー発生。
○	○	●	光源が点灯していません。
温度の状況			
●	●	○	ファン 1 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
●	●	○	ファン 2 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
●	●	○	ファン 3 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
●	●	○	ファン 4 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
●	●	○	ファン 5 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
●	●	○	ファン 6 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
●	●	○	ファン 7 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
●	●	○	ファン 8 エラー（実際のファン速度が適正速度をオーバー）。
●	●	○	温度 1 エラー（上限温度オーバー）
●	●	○	温度 2 エラー（上限温度オーバー）
●	●	●	水ポンプエラー（冷却用の水が不足しています）

	○: オフ	●: オレンジ色点灯 ●: オレンジ色点滅	●: 緑点灯 ●: 緑点滅	●: 赤点灯 ●: 赤点滅
--	-------	--------------------------	------------------	------------------

トラブルシューティング

① プロジェクターの電源がオンにならない。

原因	対応
電源コードから電源が来ていません。	電源コードが、プロジェクターの AC 電源ジャックと、コンセントに、正しく差し込まれていることを確認してください。また、コンセントにスイッチがある場合は、スイッチがオンになっていることを確認してください。
冷却プロセスの間にプロジェクターの電源をオンにしようとしています。	冷却プロセスが完了するまでお待ちください。

② 画像が映らない。

原因	対応
ビデオ ソースがオンになっていないか、正しく接続されていません。	ビデオ ソースをオンにし、信号ケーブルが正しく接続されていることを確認します。
プロジェクターが正しく入力信号デバイスに接続されていません。	接続を確認します。
入力信号が正しく選択されていません。	INPUT キーを使って正しい入力信号を選択してください。
レンズカバーが閉じられたままです。	レンズカバーを外してください。

③ イメージがぼやける。

原因	対応
投写レンズの焦点が合っていません。	フォーカスリングで焦点を合わせてください。
プロジェクターとスクリーンの位置が正しく合っていません。	投写角度および方向、また必要であればプロジェクターの高さを調整します。
レンズカバーが閉じられたままです。	レンズカバーを外してください。

④ リモコンが機能しない。

原因	対応
電池が切れています。	新しい電池に交換します。
リモコンとプロジェクターの間に障害物があります。	障害物を取り除いてください。
プロジェクターからの距離が遠すぎます。	プロジェクターから 8 メートル (26 フィート) 以内の場所に立ちます。

⑤ パスワードが間違っている。

原因	対応
入力したパスワードが正しくありません。	29 ページの「パスワードの呼び戻しを行うには」 を参照してください。

仕様

プロジェクターの仕様



仕様はすべて予告なく変更されることがあります。

光学仕様

解像度
4K UHD 3840 x 2160

ディスプレイ システム
1-CHIP DMD

クリアフォーカス範囲
2.89–6.09 m @ ワイド、4.25–8.96 m @ テレ

レンズ
 $F = 2.1 \sim 2.4, f = 20.6 \sim 30.3 \text{ mm}$

電気仕様

電源
100 ~ 240V ~ (AC)、50/60Hz

電力消費量
595 W (最大)、<0.5 W (スタンバイ)、
< 3.0 W (ネットワーク スタンバイ)

機械的仕様

重量
19.2 Kg (42.3 lbs)

出力端子

RGB 出力
15-pin mini D-Sub (メス型) x 1

オーディオ信号出力
3.5 mm ステレオ ミニジャック x 1

USB
DC (5V 2A) 出力ポート x 1

12V トリガー (0.5A) x 1

操作

RS-232C シリアル制御
9-pin D-sub オス型 x 1

LAN コントロール
RJ-45 x 1

サービスポート x 1

有線リモート x 1

IR 受信機 x 2

入力端子

コンピューター入力
RGB 入力
15-pin mini D-Sub (メス型) x 1

ビデオ信号入力
デジタル
HDMI1 (HDCP2.2) x 1、
HDMI2 x 1

HDBaseT x 1

環境要件

動作温度範囲
5°C–35°C (海拔 0 m)

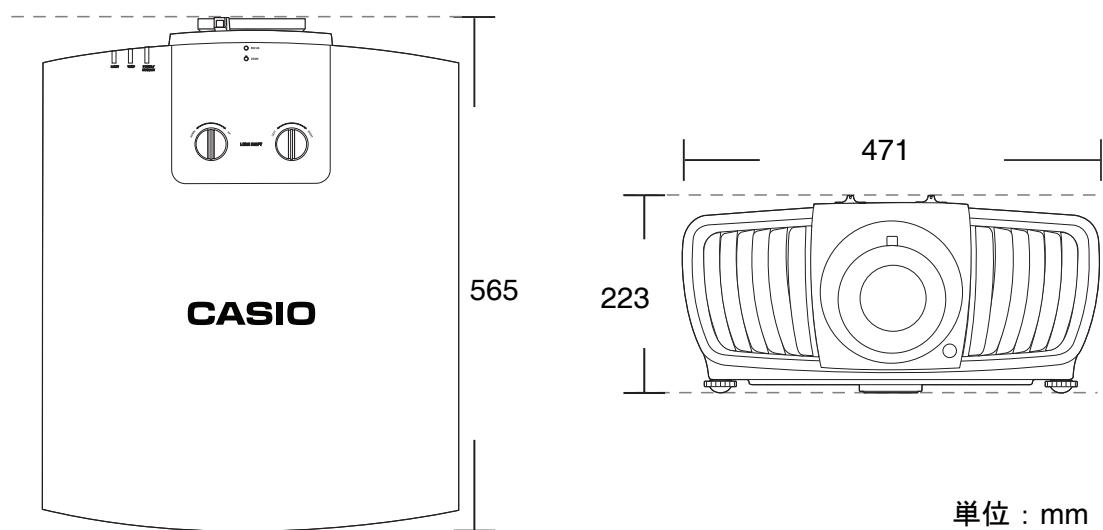
保管温度範囲
-10°C–65°C (海拔 0 m)

動作 / 保管相対湿度
10%–90% (結露なきこと)

操作高度
0 ~ 1500 m (5°C–35°C)
1500–3000 m (5°C–30°C、
高地モードオン)

外形寸法

471 mm (幅) x 223 mm (高さ) x 565 mm (奥行き)



単位 : mm

タイミングチャート

RGB 入力に対応するタイミング

解像度	モード	垂直周波数 (Hz)	水平周波数 (kHz)	ピクセル周波数 (MHz)
640 x 480	VGA_60	59.940	31.469	25.175
	VGA_72	72.809	37.861	31.500
	VGA_75	75.000	37.500	31.500
	VGA_85	85.008	43.269	36.000
800 x 600	SVGA_60	60.317	37.879	40.000
	SVGA_72	72.188	48.077	50.000
	SVGA_75	75.000	46.875	49.500
	SVGA_85	85.061	53.674	56.250
1024 x 768	XGA_60	60.004	48.363	65.000
	XGA_70	70.069	56.476	75.000
	XGA_75	75.029	60.023	78.750
	XGA_85	84.997	68.667	94.500
1152 x 864	1152 x 864_75	75.00	67.500	108.000
1280 x 720	1280 x 720_60	60	45.000	74.250
1280 x 768	1280 x 768_60	59.870	47.776	79.5
1280 x 800	WXGA_60	59.810	49.702	83.500
	WXGA_75	74.934	62.795	106.500
	WXGA_85	84.880	71.554	122.500
1280 x 1024	SXGA_60	60.020	63.981	108.000
	SXGA_75	75.025	79.976	135.000
	SXGA_85	85.024	91.146	157.500
1280 x 960	1280 x 960_60	60.000	60.000	108
1366 x 768	1366 x 768_60	59.790	47.712	85.500
1440 x 900	WXGA+_60	59.887	55.935	106.500
1400 x 1050	SXGA+_60	59.978	65.317	121.750
1600 x 1200	UXGA	60.000	75.000	162.000
1680 x 1050	1680 x 1050_60	59.954	65.290	146.250
1920 x 1200@60Hz	1920 x 1200_60 (Reduce Blanking)	59.95	74.038	154
1920 x 1080 (VESA)	1920 x 1080_60	59.963	67.158	173



上記のタイミングは、EDID ファイルと VGA グラフィック カードの制限により、サポートされない場合があります。一部のタイミングを選択できない場合もあります。

HDMI 入力に対応するタイミング

• PC タイミング

解像度	モード	垂直周波数 (Hz)	水平周波数 (kHz)	ピクセル周波数 (MHz)
640 x 480	VGA_60	59.940	31.469	25.175
800 x 600	SVGA_60	60.317	37.879	40.000
1024 x 768	XGA_60	60.004	48.363	65.000
1280 x 720	1280 x 720_60	60	45.000	74.250
1280 x 768	1280 x 768_60	59.870	47.776	79.5
1280 x 800	WXGA_60	59.810	49.702	83.500
1280 x 1024	SXGA_60	60.020	63.981	108.000
1280 x 960	1280 x 960_60	60.000	60.000	108
1400 x 1050	SXGA+_60	59.978	65.317	121.750
1920 x 1200@60Hz	1920 x 1200_60 (Reduce Blanking)	59.95	74.038	154
1920 x 1080 (VESA)	1920 x 1080_60	59.963	67.158	173

 上記のタイミングは、EDID ファイルと VGA グラフィック カードの制限により、サポートされない場合があります。一部のタイミングを選択できない場合もあります。

• ビデオ タイミング

タイミング	解像度	垂直周波数 (Hz)	水平周波数 (kHz)	ピクセル周波数 (MHz)
480p	720 x 480	59.94	31.47	27
576p	720 x 576	50	31.25	27
720/50p	1280 x 720	50	37.5	74.25
720/60p	1280 x 720	60	45.00	74.25
1080/50i	1920 x 1080	50	28.13	74.25
1080/60i	1920 x 1080	60	33.75	74.25
1080/50P	1920 x 1080	50	56.25	148.5
1080/60P	1920 x 1080	60	67.5	148.5
2160/24P	3840 x 2160	24	54	297
2160/25P	3840 x 2160	25	56.25	297
2160/30P	3840 x 2160	30	67.5	297
2160/50P*	3840 x 2160	50	112.5	594
2160/60P*	3840 x 2160	60	135	594



*HDMI 1 (HDCP2.2) ポートが使用されている場合に限りサポートされます。

サポートされるコンポーネント -YPbPr 入力のタイミング

タイミング	解像度	垂直周波数 (Hz)	水平周波数 (kHz)	ピクセル周波数 (MHz)
480i	720 x 480	59.94	15.73	13.5
480p	720 x 480	59.94	31.47	27
576i	720 x 576	50	15.63	13.5
576p	720 x 576	50	31.25	27
720/50p	1280 x 720	50	37.5	74.25
720/60p	1280 x 720	60	45.00	74.25
1080/50i	1920 x 1080	50	28.13	74.25
1080/60i	1920 x 1080	60	33.75	74.25
1080/50P	1920 x 1080	50	56.25	148.5
1080/60P	1920 x 1080	60	67.5	148.5

HDBaseT 入力に対応するタイミング

• PC タイミング

解像度	モード	垂直周波数 (Hz)	水平周波数 (kHz)	ピクセル周波数 (MHz)
640 x 480	VGA_60	59.940	31.469	25.175
800 x 600	SVGA_60	60.317	37.879	40.000
1024 x 768	XGA_60	60.004	48.363	65.000
1280 x 720	1280 x 720_60	60	45.000	74.250
1280 x 768	1280 x 768_60	59.870	47.776	79.5
1280 x 800	WXGA_60	59.810	49.702	83.500
1280 x 1024	SXGA_60	60.020	63.981	108.000
1280 x 960	1280 x 960_60	60.000	60.000	108
1400 x 1050	SXGA+_60	59.978	65.317	121.750
1920 x 1200@60Hz	1920 x 1200_60 (Reduce Blanking)	59.95	74.038	154
1920 x 1080 (VESA)	1920 x 1080_60	59.963	67.158	173

 上記のタイミングは、EDID ファイルと VGA グラフィック カードの制限により、サポートされない場合があります。一部のタイミングを選択できない場合もあります。

• ビデオ タイミング

ケーブルタイプ	ケーブル範囲	ピクセル周波数	対応する HDMI 形式		
CAT 5e/CAT 6a	100m	<=225MHz	720x480p/60Hz	4:3	24bit 30bit 36 bit
			1280x720p/60Hz	16:9	24bit 30bit 36 bit
			1920x1080i/60Hz	16:9	24bit 30bit 36 bit
			1920x1080p/60Hz	16:9	24bit 30bit 36 bit
			720x576p/50Hz	4:3	24bit 30bit 36 bit
			1280x720p/50Hz	16:9	24bit 30bit 36 bit
			1920x1080i/50Hz	16:9	24bit 30bit 36 bit
			1920x1080p/50Hz	16:9	24bit 30bit 36 bit
CAT 5e	70m	>225MHz	3840 x 2160 60Hz YUV 4:2:0		24bit
CAT 5e	70m	>225MHz	3840 x 2160 30Hz		24bit
CAT 6a	100m	>225MHz	3840 x 2160 30Hz		24bit

GUIDELINES LAID DOWN BY FCC RULES FOR USE OF THIS UNIT IN THE U.S.A. (not applicable to other areas).

NOTICE

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communication. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

FCC CAUTION

Changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

Proper connectors must be used for connection to host computer and/or peripherals in order to meet FCC emission limits.

Connector cable....XJ-L8300HN

Declaration of Conformity

Model Number: XJ-L8300HN

Trade Name: CASIO COMPUTER CO., LTD.

Responsible party: CASIO AMERICA, INC.

Address: 570 MT. PLEASANT AVENUE, DOVER, NEW JERSEY 07801

Telephone number: 973-361-5400

This device complies with Part 15 of the FCC Rules, Operation is subject to the following two conditions:

(1) This device may not cause harmful interference, and (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.



FOR CALIFORNIA USA ONLY

Perchlorate Material – special handling may apply.
See www.dtsc.ca.gov/hazardouswaste/perchlorate.

This Class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

Cet appareil numérique de la classe B est conforme à la norme NMB-003 du Canada.



Manufacturer:
CASIO COMPUTER CO., LTD.
6-2, Hon-machi 1-chome, Shibuya-ku, Tokyo 151-8543, Japan
Responsible within the European Union:
Casio Europe GmbH
Casio-Platz 1, 22848 Norderstedt, Germany
www.casio-europe.com

CASIO[®]

カシオ計算機株式会社
〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2